男女貞潔之理想　公娼廢止之主張

會長　島田三郎　副會長　安部磯雄

4—161

廓清

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）（大正六年五月一日納本）（毎月一回一日發行）

第七巻　第五號

□廓清時言……伊藤江南
□魏の曹操か蜀の孔明か……前衆議院議長　島田三郎
□露西亞の國民的自覺……早大教授　安部磯雄
□上流婦人の任務……法學博士　山脇玄
□青年と性慾……醫學博士　藤浪鑑
□新入學に就て其家庭に……高島平三郎
□淨瑠璃と男女道德……一條忠衛
□總選擧批判……早大教授　內ケ崎作三郎
□此の風紀頽敗を如何……醫學博士　藤浪剛一
□遊廓物語……救世軍婦人救濟係　伊藤富士雄
□學生の風紀に就て……梅翁
□天皷の響……吉田彌之助
□廓清春秋……元大阪商業學校長　河合篤叙

東京　廓清會本部　發行

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

暖い好い陽氣になりました。

ライオン煉齒磨は

携帯便利で――趣味高尚で――、
旅行者、有趣味者の熱心歡迎せらるる所でございます。そして

ライオン水齒磨は

花時の外出歸りや、何となく爽快の感を求める食後、又は夜の就寢前に含嗽に使つて、最も氣分を晴れやかに致します。まことに

輕便有趣且つ愉快な衛生品でございます。

◉御注文の際は必ず雜誌「廓清」によると旨を申添を乞ふ◉

第十二卷

一冊十五錢　半年八十錢　一年一圓五十錢

開拓者

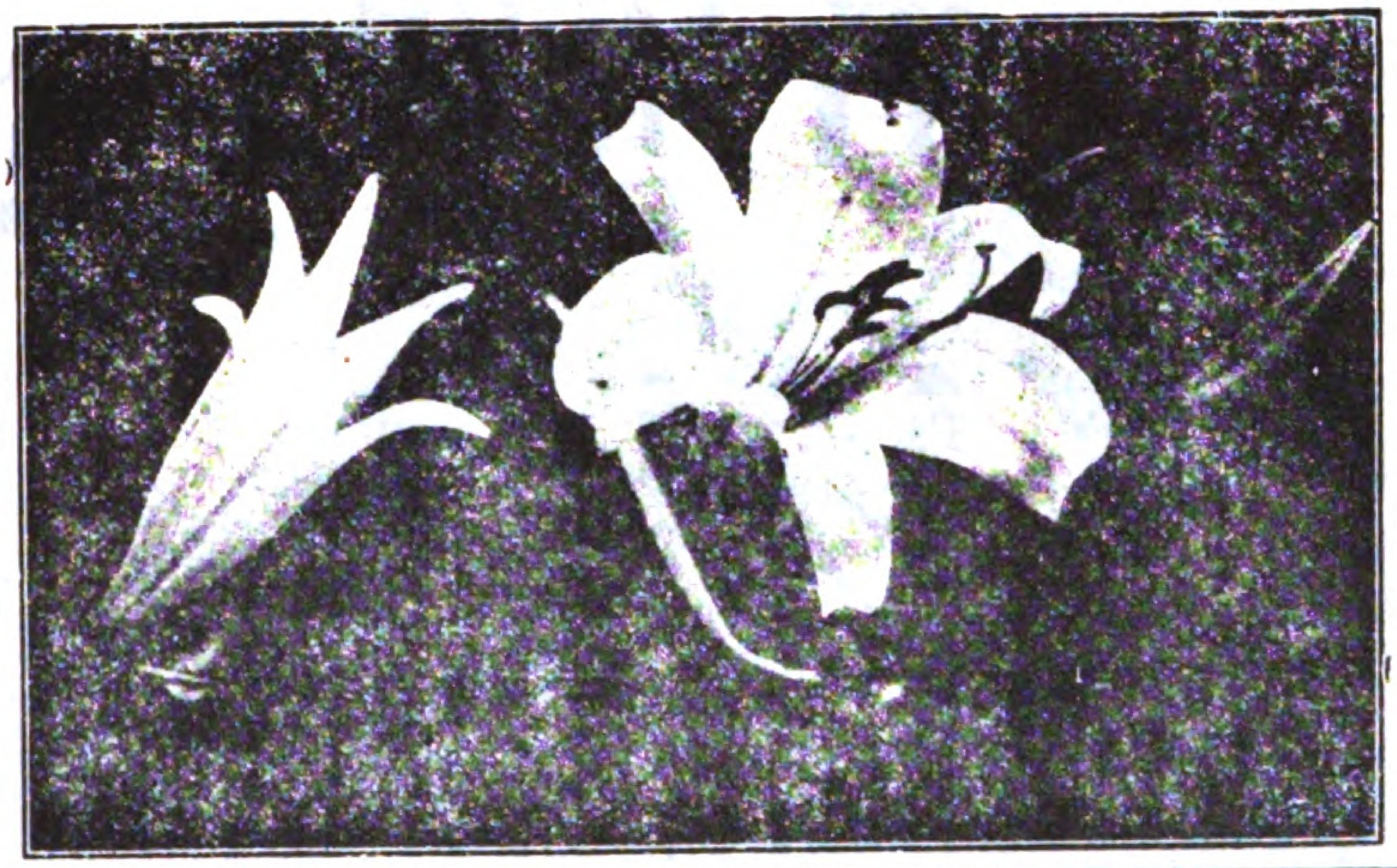
五月號出づ

見本は十五錢を要す　毎號附錄英文四頁

□現實を愛する心……文學士 石田三治
□現代の青年に告ぐ……農法學博士 新渡戸稲造
□安全第一主義……遞信次官 內田嘉吉
▲東西倫理思想の差異……文學士 野上俊夫
▲天城山畫記……岡田哲藏
▲政界の新人……押川方義氏
▲二青年の死を悼む……石田三治
▲現今布哇に於ける人種同化の事業……筧光顯
□基督の寂寥……ロバートソン
□時間と年齡……文學士 三浦白水
□新時代の形勢……法學士 有川治助

東京神田美土代町三
日本基督敎青年會
同盟本部發行
振替二〇一九六番

廓清
THE PURITY
大正六年五月
第七卷第五號



廓清時言

觀櫻に現はれたる國民相

我國は今更云ふ迄もなく櫻花の國也。春風一び駘蕩として臻れば即ち滿庭滿野燎亂として咲き靉靆として煙る。花と謂へば即ち櫻を惟ひ、花見と云へば觀櫻を意味す。櫻花果して我國民性を象徴するものなりや否や吾人之を知らずと雖も、國民此花を熱愛する甚しく、上下を擧げて名勝に一日の行樂を貪らざるは非ず。

然れども試みに行いて彼等が觀櫻のうたげを見よ、紛然雜然醉歩蹣跚として種々の假裝をなし百鬼即ち晝行し、騷然擾然杯盤狼籍として放歌亂舞するの痴態正視す可からず。而も得々として曰く『酒なくて何の己れが櫻かな』と。然らざれば即ち『花より團子』といふ。究竟彼等は飮まんが爲めに來り戯れんが爲めに觀る也。所謂敵本主義にして從つて『女ならでは夜が明けず』花こそ迷惑千萬の事也。彼等の觀櫻は實に肉體の歡樂にして精神の滿足に非ず、川柳の趣味にして俳句の境地に非る也。飮んで、食つて、謠つて、戯れて、毆つて、倒れて後止む也。

花を賞するに酒と團子とを要する國民の姿は、去つて汽車中に行き、劇場に行くも等しく之を見る可し。彼等の到處何處にか酒と團子とを要せざるの地あらん。宜なり彼等の絃妓を要し、娼婦を要するや。知らず靈の滿足、精神の文明は遂に彼等の求むる處ならざるに乎。

先帝祭に於ける不敬行事

下關市には、安德天皇を奉祀する官幣大社赤間宮に、毎年陽春四月先帝祭なる祭禮ありて同地の醜業婦(公娼)は當日官女姿にて廓内より練り出し、神殿に參拜燒香をなすの行事ありて、近郷近在より其の行列を見んが爲め

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

に雲霞の如く集り來りて見物するの陋俗あり。

如斯惡俗が風教を荼毒するの甚しきは言を俟たず、爲めに東京にては廓内に於ける『花魁道中』をすら禁止したるに、明治文明の先驅となり、吉田松陰を生み、木戸孝允を生み、伊藤博文を生み、乃木希典を生み、山縣有朋を生み、而して現内閣總理大臣寺内正毅を生める山口縣に於て、尙ほ大正の今日此の妄狀を敢てして恥ぢざるは甚だ遺憾なるが、而かも畏くも醜業婦を先帝祭と結びつけて、帝室と何等かの緣由にてもあるらん如く思はしむるに至りては、皇室の尊嚴を傷くる不敬行事といふべく、啻に風教問題たるに止まらんや。

吾人が此の行事の速かに禁止さるべきを論じたるは大正二年の事とす。（四月號廓淸時言、並に山室軍平氏の皇室の尊嚴を傷くるなきか）故に茲に再び詳說するを避くと雖も、斷じて輕々の問題に非ず、内務大臣たるもの速に之が調査をなして禁止の處分に出でざる可からず、敢て再び之を山口縣知事及び内務大臣に告ぐる所以也。

宇治山田と新宿の遊廓

伊勢の大神宮は國家の宗廟にして『何事の座しますかは知らねども、有難さにぞ淚こぼるゝ』森嚴淸淨の神境也。然るに其の内宮外宮間に古來名高き遊廓ありて、參拜者の多くは此處に其身を穢すを常とするは最も遺憾の事也。婦人矯風會の之が廢止を議決せるは頗る當を得たりと謂ふ可し。

新宿遊廓は電車の大通りにありて而も新宿御苑に隣し、更に明治神宮の地域と接するに至る。爲めに内外尊貴の歷通路たるべきは勿論にして、之が廢止若くは移轉は最も速かに行はれざるべからず、頃日萬朝報子が『謎のやうな新宿遊廓移轉の噂』と題して、遊廓側は警察が移轉を勸奬したりと云ひ當局は知らずと答へて、要領を得ざる噂の起れる事を二日に亘りて報道したるが、吾人が其の急務なるを論じたる既に一再に止まらず、前保安部長丸山氏も之に贊意を表し居られしが故に、此事必ずしも虛妄に終らざるべく、吾人は其實現の日の一日も速かならん事を望むや切也。

市場氏の『公娼と私娼』を讀む

嘗て『賣笑婦研究』を著したる市場學而郎氏は今回新に『公娼と私娼』の小冊子を著さる。今其の書を閱するに遊廓を改良して私娼を撲滅すべしとする存娼論にして、所論獨斷に陷り論理的組織的ならず、徒らに娼婦個人の境遇と心理の研究に沒頭して、社會の心理と其の政策に觸れず。

『余は敢て問ふ廓淸會の會長並に副會長は車を北里の巷に驅りて終夜娼婦と枕を共にし、而して彼れの愁訴に耳を傾けし事ありや、又彼等は淺草千束町の銘酒店に入りて所謂私娼なるものと終日膝を接して彼等の生涯が如何に悲慘なるかに腸を斷ちしことありや』

など稱して自ら之に親しむを得々たるの風あり。氏の議論に從へば遊冶郎は最も多く此問題を論ずべし、其結論の正しからざる當然の事也『公娼と私娼』の一册讀み來れば悉く之れ研究の不備不徹底を語るに過ぎずして吾人は從來幾回となく繰返したる所論を又繰返して一々論駁するの繁に報へざる也。元來存娼論は公娼を設けて私娼を抑制するの可能を信ずる無研究より來れるものなるが、果然氏も亦お多分に洩れず

『歐洲諸國果して娼婦なるものなきや否、公娼存せずんば私娼存し、私娼存せずんば公娼存するは、何れの國にも免れ得ず』

の如き迂論を述べて、公娼ありて私娼なき國あるが如く說かれたり。思ふに氏の如きは未だ絕娼論と廢娼論との區別、公娼制度にも私娼制度にも等しく散娼及び集娼の形式あることに對する政策上の研究を缺けるは勿論衞生上の知識を全く缺如せるが如し、既に氏が賣淫問題の一大社會問題たるを了解せらるゝならば、希くば其の鮑魚肆久而不知其臭の域を解脫し、根本研究より始めて吾人と共に廢娼主義を唱道せらるゝに至らん事を。（江南）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

魏の曹操か蜀の孔明か

前衆議院議長
廓淸會々長　島田三郞

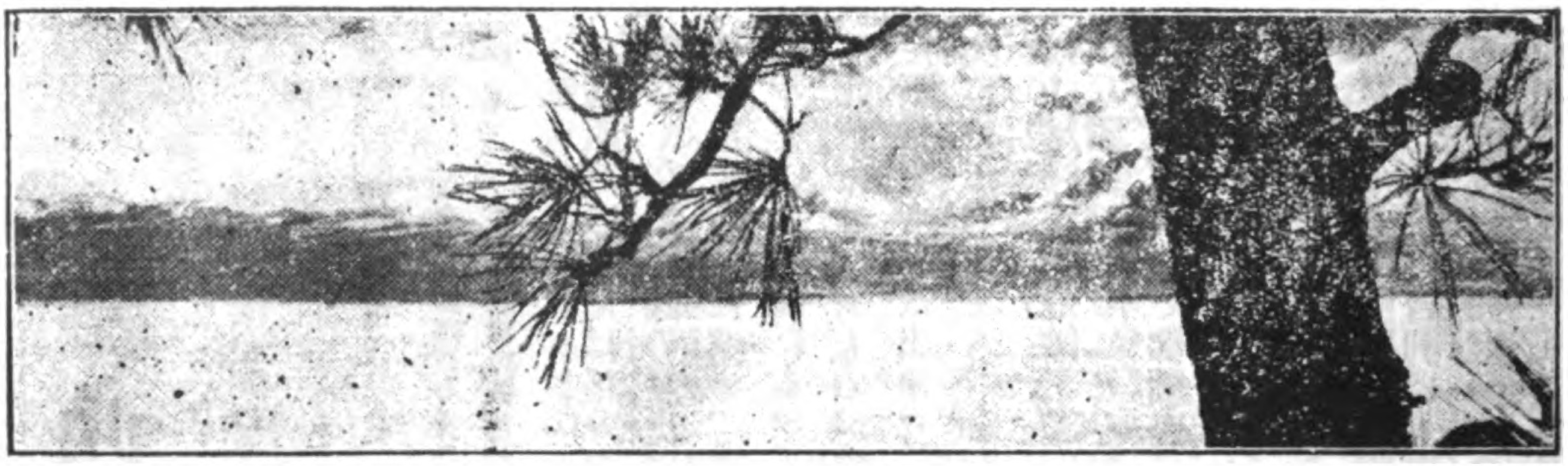
風俗を蔑にして善き政治なし

西洋諸國に於ては、風敎と政治とは極めて密接なる關係をなし、風敎の方面に罪ある者は政治上の立場を失ふのであるが、我國に於ては政治上に手腕ある者は私德に缺くるありとも之を恕して顧みない。乍併特に風俗問題の如きは瞬間に現はれて瞬間に消える樣なる問題に非ず、深く人生の根本に卽した問題で從つて風俗を離れて良き政治はないのである。彼の權謀を誇り淫蕩に耽りし袁世凱の失脚の如きは誠に所以ありで、百代の師と仰がる、孔子は『君子不出家而成敎於國』と云ひ『治國必先齊其家。其家不可敎而能敎人者無之。』と謂つてゐる。之れが先づ大學の政治觀である。

私は曩に顏淵が孔子に國を治めんを問ふて『行夏之時。來殷之輅。服周之冕。樂則韶舞。』と積極的に說き更に消極的に『放鄭聲遠佞人。鄭聲淫。佞人殆。』と說かれた事を本誌に論じたが、政治の要諦は實に意を正しうし心を正しうし、家を治め國を治めて天下を平にするにある。

出師の表の骨髓は抑も何れぞ

魏の曹操は一代に雄飛した俊傑である。孔明亦天下の鬼才であるが出師の表には曹操の才能を稱してゐる。けれども曹操は『我人を欺くも我人に欺かれざるを以て』云々といふた事があるから善良なる人ではない。故に後世其才能を稱するけれども其人を欣慕する者はない。孔明に至つては卽ち然らずで、敵の司馬仲達が命が續くまいと氣遣つた位精忠の人で、戰略に長けたといふよりも寧ろ正しき政治を行つた人である。それに就て面白い逸話がある。近代の歷史に有名な藤田東湖の父に、幽谷といふ人がある。文學の上にも政治の上に傑出した人であつたが此人嘗て儒學の門人に、出師の表の骨は何處であるか、何處に孔明の偉い處があるかを問ふた事がある。卽ち『先帝臣が謹愼を知れり。故に崩ずるに臨んで臣に寄するに大事を以てせり、命を受けてより以來夙夜憂慮付託効あらずして以て



先帝の明を傷けんを恐る」云々といふがあるが、謹愼の二字は彼の全部で、卓絶の能力は曹操にもあるのに、獨り孔明に對し賢愚となく欣慕止む能はざるは、實に其の謹愼誠實なるが爲めのみと敎へたといふが、眞に然りで、孔明の偉なるは其の誠の人たるにある。我國の標本的偉人として尊まれてゐるのは楠正成公である。戰の上手は他にもあるが彼の人位誠の人はないから、孔子流の意を誠にして政治を行るといふ事になると、孔明、正成の如きは眞の政治家で、從つて後代に追慕せらるゝのである。而も今の世魏の曹操たらん事を望む者の多くして。蜀の孔明たらんとする者何ぞ夫れ少きや。

驕る者は久しからず成金の徒

私が茲に大不平を以て大に呼號警戒したい一事がある、それは近時大阪の成金の金の使ひぶりで、國に六億以上の金貨が貯り、輸出超過で經濟界が活氣を呈しやうとも、其は我の實力ではなく戰爭といふ他力本願の功德に外ならぬが故に、成金の徒は自分の力で偉くなつたと思ふてはならぬ。力は元の通りだが、船とか鐵材とか藥とかを持つて居つた爲め偶然巨富を擁するに至つたのであるから、之によつて國家社會の公益を圖り又自らの百年の謀をなすべきであるのに、夢の如く儲かつたから夢の如く使はんとしてゐるのは甚だ心外であつて、更にそれが社會の風敎を攪亂するに至つては默じて忍ぶ事が出來ない。卽ち南地北地の遊廓を賑はすを以て第一とし、尙金の使ひ道がないから大に黃白を散じて絃妓娼婦の流に人のしない裝を凝さしめ、或は其面に墨を染めて以て快としてゐるといふ事である。昔の大盡が幇間の眉を剃つた話も思出でられるではないか。德川幕府の衰勢にはそれも相應しからうが、大正の成金藝妓の顏に墨を塗つて喜ぶに至つては、極度の愚劣で、一面農村疲弊の叫ばるゝ今日、吾人は其面に唾するも足らざるを覺ゆる。

況んや六億の金を得て喜ぶ如きは、畢竟之れ貧乏人の喜びである。見よ海の彼方亞米利加では三十億の金を得てゐるが、寡聞にして吾人は彼等が斯樣な金を藝妓の顏に墨を塗つて費つたといふ話を聞かぬのである、日露戰爭の時にも相場で巨萬の富を作つた人が少くない、日本國としては却つて金が減つてゐるけれども、一時民間に金が散つたから、新橋邊りは愚人の遊びが却々盛んであつた。而して其結果は如何といふに、金利に追はれて上下非常に苦しみをしたのは此間の事ではなかつたか。之れに懲りる事をせずして、他力で得た金に驕つて、此愚をなす。天下の憂ひでなくして何ぞ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

露西亞の國民的覺醒

早稻田大學教授
廓清會副會長　安部磯雄

▲▲ 露西亞今次の革命は各國の革命と異つて、純粹の政治的の革命でない處に興味がある ▼▼

露西亞の革命は種々な點に於て我々に敎訓を與へてゐる。恐らく今迄各國の歷史に起つた革命の中で、露西亞の革命のやうな成功した處の、又世界に非常な刺戟を與へた處の例はあるまいと思はれる。

此革命といふものが後はどうなり行くか之れは一寸今日未だ斷言する事は出來ないけれども、併し今迄表はれた處の事丈に就て考へても、如何にも此の露西亞國民といふものが我々の想像してゐるよりも餘程進步した國民であり、又將來有望な國民であることを證明してゐると思ふ。といふのは今度の革命は決して佛蘭西の革命の樣に純粹の政治的革命に止まつてゐない。そこが我々の非常に面白く思ふ處である。佛蘭西の革命でも英國のクロムウエル時代の革命でも、革命の基たる中心思想は政治である。佛蘭西は君主專制政治を共和政體とした。英吉利は專制君主制から立憲君主制になつた。然るに今度の露西亞の革命は政治も中心になつてゐるかも知れぬが、それよりももつと我々に痛快な感じを與へるのは、社會的に平生解決の出來ないやうな問題を解決した點である、永縮きしない迄にも國民が少くともそれ丈の意志を發表した處に我々の學ぶべき處がある。

▲▲ 改革の漸漸として徹底的なる點に於ては驚歎すべき事邁で日本の方が遲れて來た ▼▼

其の問題を今一々指摘して見るならば、假へば露西亞は今迄猶太人を迫害してゐた、猶太人の迫害は從來幾回となく大規模に行はれて流血の慘を見る事も屢々あつた。然るに新政府の宣言中に猶太人も全く露西亞人と同一に見做して、人種的の區別を立てないといふ事を宣言してゐる。斯ういふ事はなか〳〵政治的の革命をやつても出來るものでない。佛蘭西に於ても貴族と平民との階級を打破する事はあつたが、何分人種の異つた、今迄全く別なものとして來た異人種を忽ち同じ權利の下にあらしむるに至つたといふことは、露西亞の革命が如何に徹底的なるかを思はしめるのである。

又政治の方面で、隨分思ひ切つた改革は第一普通選擧である。此の普通選擧は啻に國會議員を選ぶのみならず、あらゆる自治體卽ち市町村の選擧にも適用する事を明言してゐるの

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

である。これなどは露西亞としては實に一足飛びに茲迄行つたのであつて、日本人などが保守的で愚圖々々してゐるのに比して、眞に潑溂してゐる。

顧みるに露西亞は日露戰爭當時迄は純然たる君主政治で議會などもなかつた。日本よりも餘程立遲れてゐた譯であるがそれが戰爭の刺戟により議會を開き、人民に參政權を與ふる事となつた。此點より云へば我國は露國の文運に寄與し、延いて今度の革命に貢獻してゐた譯である。然るに十數年を經た歐洲戰爭に於て露西亞が遂に純然たる民主政治になつて了つたといふことは、私共實に露西亞人の進歩の早いに驚かざるを得ない。

▲露西亞の國民には大なる力が潜んでゐる▲
▼之れを證明するものは第一禁酒令の實行▼

それから勞働問題の方面に於ても新政府は實に思切つた宣言をしてゐる。即ち勞働者にはストライキをする權利を認める事を宣言してゐるのであつて、之等は英吉利にしても亞米利加にしても先進國には既に認められてゐる事で敢て怪しむに足らぬといふかも知らぬが、今迄保守的の政治をしてゐる露西亞が同盟罷工の權を認めるなどは實に驚く可き進歩で、日本は其點に於て立遲れで、此方からいふと日本の工業などはいつ迄も勞働者の壓迫をしてゐるから、露西亞の方がずつと發達をしはしないかと思はれる。

翻つて社會問題の方面に行くと二つの問題を露西亞は解決してゐる。此二つの問題は何處の國でも解決は困難である。

然るに露國が今度の革命に於て、此の至難なる問題を兎に角解決せんとした事は敬服の外はない。第一の問題は何であるかといふと云ふ迄もなく禁酒問題である。此の禁酒といふ事は君主政體の時に決行したから、必ずしも革命の結果とは見られぬ。併し兎に角革命以前にしても思切つてやつた事は、露西亞國民に潜める大なる力があるといふ事を感ぜざるを得ぬではないか。斯ういふ問題を氣紛れに解決する事は出來ない。必ずや深い根柢なくてはならぬのである。特に此の禁酒令は戰爭が始まつて金を莫大に要する時にも拘らず斷行したといふ事は、隨分思ひ切つたもので、即ち露西亞に於ては酒は政府の專賣になつて居つて、十億留の收入があつた。十億ルーブルと云へば日本の一年間の歳入より遙に多いのである。彼は如斯財源を殆んど古草鞋を投捨てるやうに捨てゝ惜しまないのである。問題は今後どうなるであらうか戰後にも禁酒を續けて行くであらうか、それは分らないが、今の政府が成功すれば屹度續けて行くに相違ないと思はれる。何故ならば戰時に飲酒が可けないならば、平時にも不可といふ結論に達するであらう。既に二年以上もやつて來た事であるから辛抱の出來ぬ事はない。且つ禁酒令は例のない事でなく、米國の如く進んだ國では遠からぬ内に全く酒を飲む事は出來ないといふ事になつて來てゐる。之れが爲めに風儀が段々能くなつて、殆んど酒の爲めに醉倒れるといふ樣な事はなくなつて居るのである。

されば米國の例に見ても露西亞が之を續行する事は決して不可能な事ではなからうと思ふ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

第二に公私兩娼全廢の氣運が漲つて既に西比利亞に於ては委員會の決議となつた

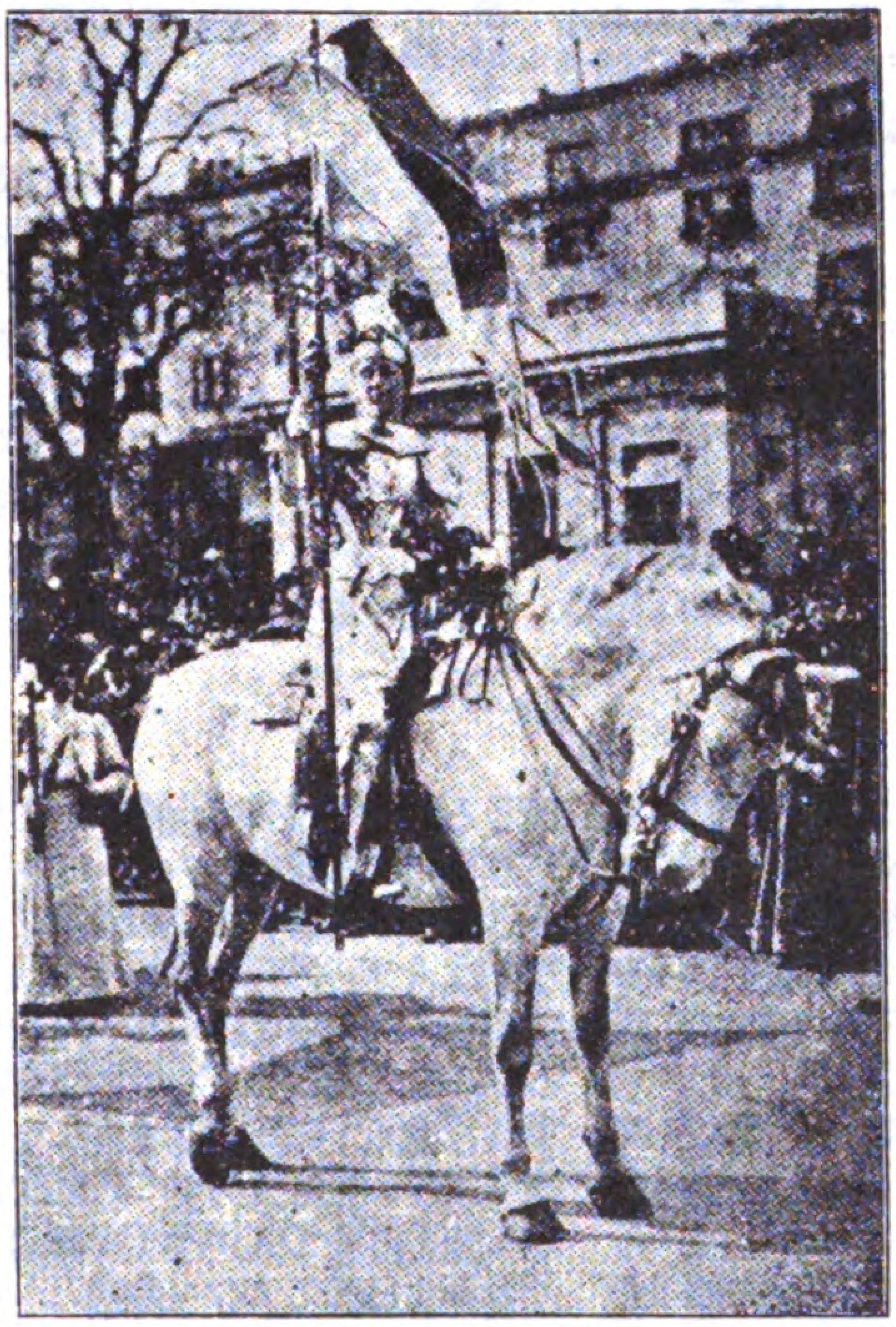
第二の問題は廢娼問題で、大阪朝日新聞の記事に見ると、露國極東の代表者ルサノフ氏の駐剳するハバロスク市に於ては、委員會で以て西比利亞の公娼及私娼を全廢するといふの決議をした。されば鳥港に在る日本人醜業者四百餘名も送還の手續を取る筈であるといふ之れで以つて見れば新政府は唯に西比利亞のみならず察する所露西亞全國も此意氣込を以て進むものと思はれる。此れは實に非常なる英斷で、禁酒といふことなら露西亞丈でなく亞米利加の半分は既にやつてゐる事であるが。乍併娼婦の問題は世界中に殆んど解決されてゐない。少くとも先進國に於ては公娼は廢止してゐる處があるが、公私兩娼共廢して了ふといふ意氣込の處はない。然るに露西亞が一部分にしろ此の趣旨を斷行して行くといふ事は大したもので之れが若し全露に行はれるなら世界中に及ぼす影響は驚くべきものがあるであらう。けれども恐らく露西亞の今迄の意氣込から云へば、屹度娼婦の問題を解決するであらう。此れが爲めに日本の娼婦が送還されるなどは、露西亞の爲には名譽であらうが、日本の爲めには非常な不名譽である。

日露戰爭迄は日本は露國より進んでゐた今日は社會問題勞働問題に於て立遲れた

斯くの如く考へて見ると、今度の露西亞の革命位世界に對して、良い刺戟を與へたものはない。我々は元より決して革命を希望するものでない。又我々は革命を待たずして如斯問題を國民の奮發努力によつて解決する事が出來ると思ふ。我々はたゞ、今日公娼問題の一つさへ解決する事が出來ぬのを如何にも殘念な事と思ふ。

日露戰爭前に露西亞に對しては、此方の方が先進國であり陸海軍に於ても確に其上に居る自信力があつたのであるが、併し日露戰爭から此方、十數年を經て確に日本は劣るといふ有樣が見えてはゐないだらうか、若し露西亞が今迄の意氣込に於て進むといふ事になるならば、社會問題に於ても勞働問題に於ても日本が立遲れの姿となるは明かである。

我々はたゞ一つ、公娼廢止といふ問題だけに於ても露西亞と對抗し得るやう、奮發せなければならぬと、切に思ふのである。



英國婦人參政權運動者出獄行列の勇姿
（ローレンス夫人）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

東洋の改善に就て

萬國改良會東洋支部長　ツイング博士

萬國改良會の目的は世界各國の弊風を打破し惡習慣を改善矯正するにあり、予は本會の東洋部長として盡瘁努力するもの茲に三十年、而して其職責上よりして殊に日米支三國の風俗改善を望むや一層切である。凡そ此社會には善惡の兩面ありて、時として善の力は惡の力を征服することあるも、亦時としては惡の力は却て善の力を壓迫する事なきにあらず、試みに惡の力の善の力に勝れ居る一例を示さば。

支那の阿片と日本の酒

の害なり、此二者は啻に非衞生的のものなるのみに止らずして、一國を貧弱に陷らしめずんば已まないのである、されど更に之よりも戰慄すべきものがある、其は淫賣幷に公娼の害是れである。

予は今より二十年前布哇に在りたる時、ホノルル市中に二百人の醜業婦の存在し、而して彼等は一日一人平均五圓を稼げるより、總計一千圓之を一ヶ年間に積算すれば三十萬餘圓に上つた。此巨額が全く不生產的に煙散霧消さるゝを見て感慨措く能はなかつたが、更に予は子供好きなるより屢々彼地の幼稚園を參觀せし都度、無邪氣な愛らしき女兒の嬉々として遊び戯るゝを目擊して、彼等醜業婦と雖も一旦はかゝる天女の俤を存し居たりしならんに、今は

罪惡の巷に清淨の身を

穢しつゝあるに想到して、一種情けなき感を惹起さゞるを得なかつた。而して此の愛らしき清淨無垢の少女も自づと其醜風に漸次惡化されつゝある跡あるを見て須臾も默々として已むべきにあらずと考へ、則ち彼地の有志と倶に奮然蹶起し「政府の許可せる公娼に對しては飽迄も反對の態度を執る事」の決議を爲し、斯て猛烈なる運動を爲せる結果、漸を以 件の魔窟は廓清さるゝに至つた。惟ふに日本は人文の發達進歩眞に以て駭心驚目を禁ずべからざるものあれば、國民たるものは宜しく

東洋の指導者を以つて

自ら任じ社會に於ける凡ての弊害を取除く事に努力すべきは勿論、就中遊廓の如き害惡に向ては極力反對せなければならないと思ふ。

茲に予は多年奮鬪の結果稍や改善の緒に就きつゝあるものを擧ぐれば、支那の阿片である、支那政府は年々之の爲めに產を傾け、或は兒童の害毒の遺傳に依りて漸次體質の劣惡に陷りつゝあるもの多きを見るや、今より十年前大に覺醒する所ありて國民と倶に禁喫の運動を爲したが、今日にては之を喫するもの著しく減少し來つたのは事實である、而して凡ての改善矯正は一に神の力に信賴する事に依つて、容易に世の惡魔を退治し惡風醜俗をよく打破し得らるゝ、日本お伽話の桃太郎は獨り頑是なき兒童に向つての好話材たるのみならず、彼は多くの不思議な手下を引率して

世界の惡魔を征伐して

巨多の財寶を分捕りて芽出度凱旋せる深き意味の含蓄されたるものにて、恰も是れ天父が一人の愛子クリストを此世に降してあらゆる罪惡と戰はしめたると一般にて、我々は其手下と爲り弟子と爲りて、社會の廓清に向つて惡戰苦鬪を續け、以て最後の捷利を期せねばならぬ。予は又夙に萬國の平和を希望するの切なるものであつて、其故今後とても一層犧牲的精神の下にクリストの弟子として、彼の偉大な力に信賴し、阿片、アルコール、公娼の全驗撲滅を期すると同時に、之に向つて不退轉の活動をせんとしてゐるのである。而して是れ予の使命であり天職である。

—(大阪支部廓清演說會講演大意)—

婦人の職業的獨立

英蘭銀行にては其行員一千二百名を義勇兵として戰地に送り、內三百二十名の犧牲者を出して居るが、其補充として六百名の婦人事務員を採用し遺憾なく事務が進捗して居るといふ。之が日本であつたら、千二百名の銀行員の缺乏を補充し得べき六百名の婦人事務員が見出せるであらうか。

また英國の議會には、空いた議員席に花環を飾つてあるのが十六ある。之は戰場の露と消えた十六名の名譽の爲に態と補缺しないといふ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

上流婦人の社會的任務

貴族院議員
法學博士　山脇　玄

□女子の任務は家庭内に限るや

女子の任務は家庭内に限るべきや否やを論究せんには、勢ひ社會を上流下流に區別してかゝらねばならぬ――。中流は其上半を上流に下半を下流として、余はいつも社會を二通りにして考へる――それは其の任務の内質と動機とが異つてゐるからである。

先づ上流社會の女子は文明史上に於て其任務に就て如何なる變遷進化をして來たかを觀るに、科學の勃興生産器械の發明迄は、男子は外界女子は内界に働いた。卽ち女子は家庭にあつて經濟、敎育、看護、衞生、被服、日用食料品の製作等凡て家内の仕事を經營して、男子と共に人類の開明に寄與し來つたのであるから、家庭は畢竟文化の中心であつた。從つて斯かる分業は能く當時の社會組織に適應して居つたのである。

然るに一方科學の學理と器械の製造力とを生産に應用して大規模の工業が勃興し、他方自治團體等社會的施設が漸く整備するに伴れて、茲に社會組織に一大改革が行はれた。卽ち社會革新の結果として古來家庭内に於ける女子の任務であつた經濟敎育看護衞生被服日用食料品製作等の大部分が、一轉して社會に移り、それに加へて十九世紀以來女子敎育も大に面目を改め、女子も男子同樣天與の性能を完全に發展して、人世の本義を自覺する樣になり、而も自覺した女子は最早安閑と家内に蟄居して徒らに飽食暖衣する譯には行かず、何か新生面を開拓せねばならなくなつた。

元より女子の天職は所謂母職と云つて妻となり主婦となり、母となつて家政萬端を經營するにあるは當然で、何人も異論なき處である。けれども社會組織の變遷に伴ひ、家庭内の仕事が女子の手を放れて社會に移動したるからは、古來の關係因緣上から、どうしても其事業に携はらねば滿足するを得ざるに至りしは自然の趨勢に外ならない。

然るに人爲加工之を防ぎ止めんとするが如きは、宛ら潮流に逆らつて堤を築くと同樣、天下之に勝る愚策あらんやである。既に社會組織が革新され、家庭内の仕事が限縮されたにも不拘、尚且つ女子の任務を從前通り限局せんとするは、之れ明かに人類の向上を阻止し、社會の公益を減殺せんとするものであり、世界の風潮に逆行せんとする謬見なりと謂はねばならぬ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

□女子の性能と社會事業の適否

果して然らば今後の女子は古來の因襲束縛より蟬脫して、天與の性能を完全に伸展し、其の嚮ふ處に進行し得てこそ文化の理法に適ひ、人類の進化に貢献し得る事となつて、其の効果の多大なる殆んど計り知る可からざるものがあるであらう。然るに論者或は斯かる風潮に放任する時は、女子は男性化して情味を失ひ、動もすれば結婚を嫌ふやうになり、遂には人口に關する一大事を惹起す虞れがあるとか、或は又天與の母職を怠る事になりはすまいかとか、其他にも種々の反對說を論ずるに相違なからうが、之等反對說は均しく世界の大勢に通せざる机上の空理空論たるを免れぬのであるから、之に對して茲に一々反駁を加ふるの餘地もなく必要もないとして、少しく眼を大局に注ぎ、歐米女子の發達史に鑑み、諸開明國に於ける女子の社會的事業を達觀する時は、直に其の獨斷に非ずんば一片の杞憂に過ぎぬ事を自覺すべきは、火を睹るよりも炳かである。

さり乍ら女子が天與の性能を發揮し、何れの方面に向つて社會の公益に寄與し、世の開明に貢献すべきであらうかは、元より今後の發展に待たねばならずして、而も各個の選擇に任すべきはいふ迄もなき事である、けれども元來女子は特に同情、愛護の念に富むものであつて見れば、其の天性に最もよく適合するものは社會何れの方面にあるかといふ事を語り得ないでもない。卽ち何人も必ずや指を先づ救濟事業に屈するであらうと思ふ。

□歐洲戰爭の吾人に與ふる教訓

吾人は彼の歐洲戰爭が三十三ケ月の長きに亘り、徵兵は元より軍器軍需品食料品の製造配給に至る迄、未だ曾て一糸亂れたる跡なく、平時の準備の如何に遺憾なく講せられゐたりしかといふ一大事實を閑却し能はぬ。

予は今其の一端として、否寧ろ重要なる一事として獨逸に於ても將た又英國に於ても、平時より下流社會に對する救濟事業に意を用ひたる事實を指摘し、此際我が國民、殊に上流婦人の蹶起努力を促したいと思ふ。

一國生產力の中堅をなすべき下流社會卽ち、勞働階級に對する救濟事業宜敷を得ずして、其結果國民の多數が精神的にも物質的にも不健全であるとしたならば、そは明かに國際間の劣敗者たるべきものである。顧みて我國現今の實狀を觀察するに、遺憾ながら國民の大多數が不健全狀態にあるものと云はざるを得ないので、其結果の恐るべきは我輩の切言を待たぬ處である。之れ我輩が救濟事業上諸設備の急務なるを高調し、上流婦人が覺醒蹶起して社會國家の爲め速かに實行の道に着かん事を切望する所以である。

□勞働階級の改善及救濟の急務

實行の第一步としては先づ上流婦人が下流社界の地位を向上せしめ、兼ねて其生活を安定ならしむるの方法を講ずるを急務とする。幸にして我國にも赤十字、愛國婦人會等幾多の婦人團體がある。けれども其の事業は凡て小局部に限られて

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

普遍的活動のものはないのである。故に此等の團體が若し其餘力を集注して救濟事業に當るの覺悟を持つならば、必ずや大なる功績を擧げ得るであらう。此の二途の實行は我國今日の急務にして一に上流婦人の努力に待つべきものであり、また上流婦人としては社會國家に對して盡すのが當然の義務である。

差當り精神修養の方法として時々講話會を開き、最も平易に其の家庭生活夫婦關係等の常道を敎へる事から、次第に其歩を進めたい。就中最も大切なるは幼兒の養育であるが、小學校に入學する迄の幼兒を預つて相當の敎育躾けを施し、又は之に袋張り其他極く簡易の手藝を習はすれば、彼等自身の爲めにもなり、又幼兒預所の一事業ともなつて、漸く女工社會の手助けをなすに至らば其効果大なりと云はねばならぬ又彼等の衣食住に關する諸般の施設に就ても勸奬すべき事業一にして足らぬ。今日市内の各所に散在する彼の共同長屋の如きは、何れの點より見ても到底人間の居住する場所とは思へないのである。たとへ其構造は粗末でも、空氣の流通をよくし、日光の直射するやう衞生的に工夫して廉價に貸與し又日用缺ぐべからざる食料品の如きも廉價に供給する設備をなすことは、彼等社會の狀態に於て最も適切な研究すべき事業である。

□公設市場なきは文明都市の辱

今や米、味噌、醬油、薪、炭等日用品の價は戰前に比し約六割以上の暴騰を見る時に當り、我々市民の最も必要を感ずるものは公設市場の設立である。此所に於て魚類、野菜、乾物等を廉價に供給する事は市民の均しく喝望する處、殊に下流社會に對しては如斯機關に依つて日用食料品の供給を潤澤ならしめなければ營養不良の結果、自然に心身衰弱して、遂に平素の勞役にさへ堪へ得ざるに至るであらう、市當局は此點に留意して速かに實行を期すべきであるが、此事たる元々家事經濟に密接の關係を有つものなれば、當局に迫まつて一日も早く決行を促すは又上流婦人の宜敷努むべき任であるといふてよい。或は又デパートメントストーアやうのものを設けて日用雜貨を茲に陳列し、普く市民の自由縱覽に供して賣品は一々配達する方法をとることも又一便法である。此の外上流社會の着古した衣類や廢物を集めて時々慈善市を開き下流社會の爲め廉價に發賣する事なども見遁すべからざる良法である。

何れの國に於ても國民の大多數を占め、生產力の中堅をなすものは下流社會である。彼等の健實なると否とが國力充實の上に重大の關係を持ち、其結果或は徵兵に或は生產に其他種々の社會的國家的事業に表はれて來る事は、我輩の呶々を待たざる處である。尙ほ特に留意すべきは、近年我國に於て初生兒及少壯女子の死亡率が著しく增加した事である。此の事たる多岐繁難に亘り容易に解決し得べきものに非ざれば當局に一任して袖手傍觀すべきでない、又識者論客の空理空論だけで、救治せらるべきでもない、上流婦人の卒先して其の實踐決行に任ずべき一大事業であるを信じて疑はぬ次第である。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

青年と性慾（二）

醫學博士　藤浪鑑

公娼設置の目的の主なるは、上述男子性慾の抑歇出來ぬものなりとの前提の下に、恐るゝ可き花柳病を豫防するに在るや疑ひ無し。此賣笑婦、殊に國家免許の公娼に戯るゝことが青年の心理狀態・倫理觀念又精神的作業力の上に及ぼす影響に就ては、今姑く論題外に措くとしても、公娼設置の重大目的なる花柳病豫防が果して其目的通り行はるゝや否や。こは國民的衞生の上より觀て、頗る、肝要なる問題なり。

之を信用す可き統計並に個々の實際例に徵するに、公娼が國民の花柳病蔓延に與て力あることは、實に驚く可きものなり。公娼は他種の賣笑婦と共に花柳病蔓延の大々的源泉なり而して此花柳病が國民の健康を害し、毒を子孫に遺すことの慘憺たるは、誠に戰慄に堪へず。花柳病とは通例、梅毒・痳疾及び軟性下疳を稱するものにして、此病の病理、並に之が如何に恐る可きものなる乎は、先年松浦醫學博士が我大學の特別講演に於て說述せられたるものありて其書物も既に數年以前に、出版せられたり、諸君が此書に就て閲覽せむことを望む。今一々之を說明せむには時間餘りに短を奈ともする無し而して此疾病は殊に最も恐る可き痳疾や黴毒の屢々頗る根治し難きものなることは專門家の齊しく唱ふるところなり。彼の六百六號始めて世に現はれたる頃に於て、此靈藥は一擧して世の黴毒を全滅し、數年の後には世上復た、此惡疾の痕跡を留めざる可しとまで期待されたるが、今果て如何。專門の大家なる松浦博士が余に親しく告ぐるところに據るも、六百六號により黴毒を全治せしむるには患者の堪忍と思慮とを要請するところ甚だ多きものあり。六百六號世に出でゝ以來、世間の黴毒の減退したる形跡を見るに由無しと。之によりても、人間の惡敵を退治することの如何に難きを見る可し。嗚呼此の惡鬼は花の顏もて青年に近き、青年一たび之に捉へられなば、彼は好んで血に入り、骨を侵し、屢々永く其毒氣を吹きて止まず、無瑕の美少年を化して汚醜敗殘の臭骸となさんとするに至る。曾て米國の醫科大學の臨床講義に於て、黴毒皮膚炎の一患者を示し、其教授は學生に向つて曰く、余は北米全土に代へても、斯かる疾病の余が身にあるを欲せずと實に斯の如き感は屢々吾人の遭遇するところにして、而かも是れ多くは『自作孼不可逭』るものに原因し、若くは己の親の罪の報いなることを思へば、誠に嘆息に堪へざるなり。

此忌む可き花柳病が如何に盛に蔓延せるやの一事に思ひ到れば、仲々に其人を叱責するの餘裕も無き程にて、國民の健

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

康を救護せむが爲に、其豫防を講ずるの急を感ずること益々切なり。

此花柳病の蔓延は我國にても亦泰西にても、仲々に恐ろしき程度なり。此事も亦松浦博士の書中に審なり。此書中に引けるところに據るに、我國の陸軍、徵兵に於ても、壯丁が不合格となる原因の中に就て此花柳病は比較的大部分を占めたり。軍醫なる山田博士の調査に據るに、明治四十年十二月、第一師團第三聯隊の新入營者千三百二十四人あり此は徵兵檢査に於て、既に一たび合格したるものなるや勿論なり。而して其入營に當り復之を檢したるに、其一九・二%は花柳病に罹りたりと云ふ。松浦博士は徵兵檢査の際に壯丁の尿中の『痳絲』を檢したるに、其人員の五〇—六〇%に之を認め此人等は痳疾を有するものなるを知れり。松浦博士の門下なる月山・吉田氏が京都醫科大學醫院にて、痳疾の訴をなさゝる各科の男性患者十五歳以上のものを調べたるに、二百六十七人中、百五十人は痳疾あるを發見したり。

花柳病は如何なる社會階級の人を襲ふやと云ふに、實は上は貴顯の人より下は乞食に至る迄、殆ど總ての階級に浸潤せり、而して同じく松浦教授の門下にて青島氏の精緻なる調査に據れば、學生は、比較的其數の多きを示し『優勝の地位を占め』居れり。月山氏の報告に於ても、會社員や學生に於て著しく花柳病に罹れる割合の多きを見る可し。學生は未來の日本國の文明を背負て立つ可き人なり。斯人にて斯疾あるは忌はしき限なり。歐洲にても大學生の花柳病に罹る數の恐る可き程多きを指摘し、其豫防方法の講究の必要を叫べるものあり。我國の大學生は恐らく斯くの如きこと無かるまじきなれども、花柳病專門醫はやゝともすれば、余に告ぐるに學生罹病の傾向の增すのみなるを以てせり。學生の職分の貴きだけ、又花柳病の禍害大なるだけ、之は決して過眼雲煙視能はざる重要の問題なり。

此戰慄す可き花柳病の生產地は果して何處なりやと云ふに茲にも亦松浦博士の書を引用す可し。同氏の皮膚病花柳病學教室に於ける三百十八人の患者に就て至つて愼重なる調査を行ひたるところ(青島氏調査)に據れば傳染を公娼より得たりと云ふもの百六十三人。藝妓より得たるもの三十六人、酌婦より二十七人、密賣婦より四人、玉突・矢場・下女其他より三十四人、云々。其他、人の細君にして夫より受けたるもの二十二人あり。單に此數字より見るも、檢黴濟と稱する公娼が、如何に花柳病蔓延の大源泉なるやを知るに足る。此公娼の檢黴なることが、花柳病豫防に對し、如何に微力なることは、所謂檢黴方法の實際に鑑み容易に首肯し得らるゝところにして、之れ敢て檢黴醫の罪には非ずして、實際の仕組が斯くの如くならざるを得ざらしむるなり。而して世間の人は此檢黴あるが爲に却つて安心して行き、行きては罹り、罹りては又之を他人に嫁せしむ。此公娼の如何に多くが花柳病患者なることは、最近大阪府立難波病院副院長中野氏の統計に據りても之を推測するに足る。氏は大阪府下に於ける公娼に就て多數の人員に基づき、多數の歲月に亘つて作せる精細なる調査の成績を報告せり、之に據れば公娼の花柳病數は最近十ヶ年

間に大體に於て逐年增加の傾向あり、而して娼妓總體の七〇%は黴毒の潛伏期中、又現に黴毒症狀を有するものと推定せしむと云ふ。此は唯黴毒のみのことなるが、痳疾に就ては、娼妓總數の四二%に罹病患者たることを推定せしむと云へり。而して此等公娼の中、所謂無毒なる者はたとへ今日只今、尚未だ此等の花柳病症狀を出すに至らざりしとするも彼等は日一日、刻一刻新しき傳染を受くるに適するものなれば、彼等は終には悉く花柳病患者となると謂ふも、敢て誣言に非ざる可し。而して此花柳病患者は日一日、刻一刻、一方に妖艶花の顏もて可憐の青年を招き寄せ、他方には之に向ひ盛に其病毒を注射し之を天下に蔓延せしむ。彼等は如何にしても金毛九尾の妖狐なり。公娼既に斯くの如しとせば、所謂私娼の中に病毒が何如に猖獗せるやは想像に難からず。又中野氏の調査に據れば、娼妓たらむとして未だ、娼妓たらざるもの、卽ち娼妓の候補者に於ても、既に痳病一〇・四%、軟性下疳四・九%、黴毒一・七%ありしと云ふ。是れ彼等の新しき花柳病製造營業に入らむとする時の持參金なり。驚く可き哉。

賣笑婦に戲むるゝの危險は單に此身體的害毒を以てしても既に十分なり又十二分也。而して人間の性慾の中には諸多の分子を包藏し、純精神的感覺をも入るものなるが故に、此危險を冒してまで虎穴に入るの性慾的勇者(?)必しも常に虎兒を獲るあたはず、彼等は必しも常に人間としての完全なる性慾滿足を得ること云ふ能はざるが如し。又、人間にはなまじ此純精神的感覺あるが爲に、營業的性慾界に全く不似合なる方面の特殊なる禍害さへ釀さるゝことあり。況や其他の人事上・倫理上・精神上に於て、此際幾多の惡報が可憐なる青年の身を苦しむるに於てをや。性慾の利刄が其所有者に祟ること村正の名刀以上なるものあり。

是に於て性慾界の餓鬼を濟度せんとする聲、叫び出されたり。性慾界の迷津に漂へる青年等には天上の福音として聞こゆ可し。曰く、青年の性慾は自然の事にして之は抑制す可からざるものなり。又之を抑制するは健康に害あり。而て公娼は天下御免の公娼なり、抑制す可きに非る性慾を懷ける青年が之に就て其性慾を發揮するは、彼等の自然にして彼等の自由なり。只彼等をして花柳病の感染を免かれしむる手段を取らしむ可し。其手段を彼等に敎へ込む可しと。大學生も亦青年也。國家有用の材となる可き大學生には特に此豫防方法を授づけて、以て此大切なる青年社會の健康を防護す可しとなり、斯の如きの言は殊に折々世の醫家より聽くところにして且、之は自己の淫猥生活を辯護するやうに聞こゆる人の口に出づるのみならず、又眞面目に民生の健康を憂ふる尊敬す可き學者にして亦之を唱ふるものあり。嗚呼此福音は青年に對して果して眞の福音なるや、性慾界の迷津に漂ふもの、果して之によりて眞の救濟を受け得可きや。修養無く理想無き市井の匹夫に對しては、或は是亦一の善巧方便なる可しと雖、苟も、敎育あり自重あり向上的理想あり精神的修養あり又之れある可き筈の大學の青年に對しては果て如何。之を福音なりとして隨喜の淚に咽むもの果して之れ有りや、若、之れあらば其人多きや將た少きや又之を我品性の侮辱なりとして斥

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

るもの果して之れ有りや、若し之れあらば其人多きや將た少きや。余は今俄に其答案を得んとして心急ぐにあらず余の今茲に語らんと欲するは唯次の事なり。此の世の仁人の青年に教へ込まんとする豫防法として實際如何程役立つものなるや心細く思はる、理由決て少からず。余は此點に關しても、頗、松浦博士と意見を同うするなり。實に同氏も既に謂へる如く、斯かる豫防的用意を周到に調べ、恰、戰場に臨むが如き心地にて買笑の巷に入り、以て身を保護せむとする位に思慮ある青年ならば其殊勝なる心掛けにて、己を斯る危險地に立ち入らせぬやうにするは寧、頗、易々たることならむ。又人心の弱點として危險に接觸する動機の生ずるは、至て屢々不用意の間に在ることなれば、假令安全なる豫防法ありとするも、之れ更に間に合はぬこと仲々に多かる可し。誠に油斷も隙も無く危險千萬の話なり。

されば青年品性の問題を今姑措くとするも、花柳病豫防の最安全なる方法は、浮動せる性慾を懷て危險地帶に立ち入らざることなり。婚姻以外の性交を禁ずるにあり。之は最も平凡の説なり。然乍ら最確實なる道なり。或は陳腐の言ならむ、然乍疑も無く眞理なり。頃日余の知り得たるところによれば、獨逸國にて近年ライプチヒ大學醫科大學長ザットレル博士を團長として『獨逸醫家性慾倫理團』なるもの創立せられたりと云。花柳病を撲滅する唯一確實方法は結婚まで性交を禁欲するとなれば、婚姻以外の性交を禁欲するを以て此團體の目的なりとす。此目的を達せんが爲の事業として、醫科學生に對する講演及兵役に從事し居れる醫學生に對して警告檄文を送附すると云。彼地に於て學生の間に花柳病蔓延すると云ふ彼國學者の報告に鑑み、斯かる團體の發起ある所以も成程と首肯せらるゝなり。さるにても彼國にては花柳病豫防の器具など頗、廣く行き渡て販賣せらるゝに拘はらず、花柳病の勢は依然猖獗なりと見ゆ。蓋、性慾は打算的のものに非ず、其發動發揮は勘定的を超脱したる感情的のものなり。之を全く支配し得るは唯人間意志の力あるのみ。されば此間に勘定的打算的なる小刀細工を入れ、性慾より出づる餘弊を只之によつて救濟し得ると考ふるは、餘りに樂觀過ぎ器械視過ぎたる話に非ずや。

制慾は健康に害なし

以上述べたる如く、青年が性慾の滿足を求めんと欲して屢々之に耽ける行動の、青年を危害に導くもの多しとせば、青年は此切つても切れぬ因縁ある性慾を終に如何せば可なるや。性慾は唯緊張する許りなり。人の子は益煩悶するのみなり嗚呼眞に如何せば可なるや。

早婚は固より不可なり。又一生を通じての絶對的禁慾は、唯特別の場合を除きては決て望ましからざることなり、又生物生殖の大義にも戻るなり。

男子は一定の年齡と一定の位置とに達しなば、必ず結婚す可きものなり。斯くて彼は性慾を完全に滿足せしむるを得、且生殖の大義を全うするを得るなり。而て此際男子は女性の好配を得んが爲に、女子は己の良偶を選ぶが爲に、一種の意義ある競爭起らざるを得ず。而し此競爭が人生の進歩に資益

するものなりとせば、此競爭は人生の爲に慥に好事なり。是に於て優者は勝ち、劣者は敗れ、優者は配偶を得て生殖を遂げ其子孫を遺し、劣者は配偶を得ずして其種は消滅す可し。蓋、斯の如きは唯、理論上のことのみとするも、此優者たらむが爲に青年は努力す可きなり。努力せる青年が優者として好配を得るの希望多きことは、實際的に於ても固より明白なり。宋の眞宗皇帝勸學歌に『娶妻莫恨無良媒、書中有女顏如玉』と云ふ句あり。勉强して上達する男子は自、美なる好配を得可しと云ふ意にも解釋するを得可し。

然し人間の實際世界は、しかく單純のものに非ずして、萬事注文通りに事を運ぶと限らず。幾多の矛盾や紛糾を呈出するは誠に止を得ざるところなり。併乍ら男女成熟して一定の年齡に達しなば、必ず結婚す可きものなりとすることを以て、よし特別の除外例あるにもせよ、普通なる人間定則となす可きなり。『社會改良』は須く性慾問題を以て中心となす可し、從て生殖を奬勵す可し、從て心身共に優良なる種族を蕃殖することを期す可きなり。而て人間結婚の後と雖、性慾の衞生・性慾の倫理と云ふことは、固より存するものにして婚姻により性慾問題が萬事完結せりと云ふに非ず。

性慾と生殖との間に若完全の調和あるものなりとせば問題は頗、簡單にして人生は除程太平ならむ、然れども實際世界に於ては兩者の矛盾屢甚しきが故に、性慾を奈せむやと云ふ青年の煩悶は益大となるなり。

此性慾に關する疑惑の解明と、並に余が前に述べたる如き婚姻以外の性交を遮斷するを以て花柳病豫防の最良法とすると云ふことの裏面とは、懸つて次の問題の答案の上に在り。そは

『人間は婚姻を結ぶ迄性慾を抑制するを得るものなるや、又性慾抑制は果して人體の健康を害する無きや』

如何と云ふ問題なり。青年には假令『倫理』なる美名の下と雖人間性の自然に全然逆行するが如きことを强ふ可きに非ず、又是、到底不可能のことなり。又大切なる青年に對して其身體健康を脅迫せしむ可きに非るなり。人間・性慾は到底抑制し能はざるもの又之を抑制するは健康に危害ありと云ふ前提が果して眞理なりせば、前に述たるが如き性慾の滿足を求むる行動は、之を是認せざる可からず。或は時に之を奬勵せざる可からず。而して其實際の結果は如何、青年の身體は羸弱となり、花柳病は益猖獗するのみなり。偶、智者ありて花柳病豫防法を青年に敎へ込むと雖、未、十分なる完全を期し得られず、却て之により青年を誘惑し挑發して、危險地域に入るの機會を多からしめんとす。夫、青年の品性益崩壞せむとし、青年の感情は益荒まむとす。人生には多く自然の矛盾あり、又岐路の暗黑あることを否拒す可からずと雖、而かも人生の大道とするところは慥に光明なり、常に調和なり。若、人間性慾は抑制す可きものに非ずと云ふ前提が眞に眞理にして、人間の性誠に然なかざる可からざるものなりとせば之に遵ひたる人間の行動が人間を斯く危險に導くと云ふの理豈之れあらむや。人生には斯くまでに大なる矛盾あるを許さざるなり。然らば此性慾に關する前提は果して眞理なりや、人間の性の自然は此外に出るを許さゝるものなるや。(未完)

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

浄瑠璃の男女道徳

一條忠衛

一、お染久松（野崎村の段）

この二人は徳川時代の家族道徳の世の中に、自由意志に基く戀愛によりて結合した仲である。そして其の結合には個人の人格に發した道念が横はつてゐた。けれども、久松は生れは武士の子であつたが、家が潰れたために、十の年から乳母の兄であつた百姓久作の養子になり、そこから油屋へ奉行に出されて居た身分であつたから、養親に對しては飽く迄も孝道を盡さなければならぬ義理があつた。彼れがお染に「山家屋へ嫁に行け」と言ひ殘して養家に歸り、養母が死なぬ中に許嫁のおみつと祝言の盃をさせられる段取になつたのも、此れが爲めであつた。それで久松は養親に對する孝道のために、一たん契つた妻のお染を棄てた譯になつた。然るにお染は久松の跡を慕うて野崎村に來り、久松に縋り付いて恨み泣きをする。「私がことは思ひ切り山家屋へ嫁入せよと殘しておきやつたコレ此文。そなたは思ひ切る氣でもわしや何んぼでも得切らぬ。餘り逢ひたさなつかしさ、勿體ない事ながら觀音樣をかこつけて逢ひに北やら南やら、しらぬ在所も厭ひはせぬ。二人いつしよに添ふなら、飯も炊ふし織つむぎ、どんな貧しい暮しでもわしや嬉しいと思ふもの。女の道を背けとは聞えぬはいの。どうよく。」とある此の中で「そなたは思ひ切る氣でもわしや何んぼでも得切らぬ」と云ふ語と「女の道を背けとは聞えぬはいの」と云ふ語は、お染に最も強い所である。一たん人格の上に結合した戀愛は、心理的の外に倫理的のものであるから、一方が心理的に思ひ切る氣でも一方が心理的に倫理的に思ひきらない時は、前者は一切の道徳的責任を負うて不徳漢になつて離婚することを肯定しなければならない。それから貞操の觀念の發達した當時の社會では、一たび契つた男子に身を許した人妻であれば貞婦兩夫に見えずで、山家屋へ嫁に行けと云ふことは女の道を背けと云ふことに當るのである。久松はなほ養親との義理からお染を得心させやうとしたが、お染は人情の婦道から久松を責め、それでも嫁に行けと云ふならば覺悟があると用意の剃刀を取直したので、久松は驚いて從前の通り「女房ぢや」と云つて言質を與へ「お染樣、久松」と云つて手に手を取つて元の鞘に納まり、お染の勝になる。これは二人の道徳的關係に於てお染の方に弱點がなく、久松の方に大なる弱點があつたからである。この久松の道徳的弱點に對してお染は飽く迄も人情より責めるのであるから、久松が善人である以上は其の負債を果さなければならぬ道理になる

然るにこゝに久松とおみつと母とが加はるに至つて義理人情は一層紛糾して、道徳的關係が統一を失して來るのである。何れも義理人情の上より道徳的關係を處分しようと云ふであるから、一方へ義理が立てば一方へは立たず、一方へ人情が通へば一方へは通はずと云ふ形で、剃刀を互に奪ひ合つて自殺の競爭になつて居るが、遂には義理の權衡からして自殺も出來なくなつて居る。結局は久作と久松との養親子の關係も、おみつと久松の許嫁の關係も、お染と久松との戀仲の關係も帳消しになつて、他人同志になることによつて落着が附いて居る。これは徳川時代の社會道徳なる義理を極端に重視した結果である。けれども此の義理道徳は貞操道徳とは永久に對峙して調和が取れなかつた。その結果、貞操は義理のために支配されて、極めて不自然な狀態に葬られて居る。若しおみつと久松との間に許嫁と云ふ不合理な道徳的關係が無かつたならばお染と久松との戀を邪寃することにも成るまいし、お染の死を取り止める爲めに縁を切ると云ふやうな愚を演ずる必要も無かつたらう。また他人の戀人である久松を強ひて已が娘に娶合はさうとする不見識を企てる必要も無かつたらう。お染はまた久松とは謂ゆる二世も三世も契つた仲であれば、久松に養子又は許嫁と云ふ

不合理な肩書が無かつたならば、社會の義理に逼つて久松を思ひきつたなどとあられも無く自己を裏切る必要も無かつたらう。おみつが尼になつて世を送り、お染も良縁兩夫に見えずの道理から獨身で世を終ることになれば、義理と云ふ道德は男女の生活を不自然にさせることに成るのである。要するにお染久松の戀愛的關係を完全ならしめ一夫一婦の人格的生活を貫徹させることの出來なかつたのは、久松に蛇足な養親子の親族的關係と許嫁の關係とがあつた爲めである。此の二つの關係は、德川時代には強大な習慣であつたが、今日から見れば虛僞の親子關係であり、虛僞の夫婦關係に過ぎない。お染久松は此の時代思潮に成れる虛僞の道德關係の習俗のために、自分等の比翼を引きさかれ神聖な天興の人格的關係を毀損された形である。これは今日の社會に於ても尚ほ因襲の化石として屢々世間に見聞する事例である。實にあさましい次第である。

二、三勝半七（酒屋の段）

半七は三勝と關係して夜泊り日泊りして、親の當てがつた女房のお園を嫌ふので、親の半兵衛は怒つて半七を勘當させる。宗岸は娘のお園を連れて半兵衛の宿に行き、半兵衛夫婦に對して詫びながら、今迄の通り嫁ぢやと思つて置いて呉れろと手を合せて頼む。お園も手をつかへて『父樣の逸徹で無理に連れられ歸りしが、一旦嫁御と極つた半七樣、嫌はれるは皆私が不調法、ぐどんに生た此身の科今から隨分お氣に入様に致しませう程に、やつぱり元の嫁娘とおつしやつて下さりませ、おふたり樣。』と涙を流して頼んで居るお園と半七との結婚を宗岸もお園も、半兵衛夫婦に向つて頼み込んで居るのである。宗岸から見れば自分の娘の結婚を婿の親に向つて頼んで居り、お園から見れば自身と半七との結婚を半七の親達に向つて頼んで居るのである。これが家族道德に本づく德川時代の結婚であり本人同志の結婚を親達の意志や企てによつて成立させやうと圖るのである。不思議と云ふも愚かである。お園はまた感傷的な言葉をしぼり出して『今頃は半七樣何處に如何してござらうぞ。今更返らぬ事ながら私と言ふ者無いならば、半兵衛さんもお通に免じ、子まで成したる三勝殿を、疾くにも呼入れさしやんしたら、半七樣の身持も直り、御勘當も有まいに、思へば〳〵此園が、去年の秋の煩に、いつそ死んで仕まうたら、斯うした難儀は出來まいもの。お氣に入らぬと知りながら未練なわたしが輪廻故、添臥はかなはず共、お側に居たいと辛抱して、これ迄居たのが御身の仇、今の思ひにくらぶれば、一年前に此の園が死ぬる心が付かなんだこらへてたべ半七さん、わしやこのやうに思うて居る。』と云つて居る。半七には既に三勝と云ふお園以前の戀人があつて、お通と云ふ子までなした間柄であるのに、お園は嫌はれながらも自分の良人に定まつた人であると云ふ當時の貞操觀念から思ひ込み、添臥は出來なくともお側に居たい、と辛抱して居たなどは、今日から見れば極めて愚劣であり、德川時代に於ける柔順な嫁御の代表者である。自分の良人に定まつた人が戀人と同棲して居る側でも能いから置いて貰らひたいとは、妻妾群居の希望であり自己の人格を侮辱する者であり、婦人の神聖な權利を辨じない愚婦の謂ふことである。また添臥はせずも、親達の命令により一旦嫁御と定まつた人に對しては、貞節を守らなければならぬとした當時の道德觀なるものは實に誤つて居たことには頷かざるを得ない。斯うした人格的觀念の拔けた愚婦型を作ることを今日の社會に於ても道德上より承認して居るに至つては益々頷かざるを得ない。諸所の席で娘義太夫などが『今頃は半七樣』と云ふさはりにかゝると、見臺からからだを半分飛び出させて語るのであるが、それは藝術としてであるから宜いとしても、それをヤンヤ拍手喝采する聽衆の大半は、ほん氣になつてお園に同情して居るので、一世紀半ばかり後れた思想感情を懷いて居る。さて三勝と半七とは書き置をして、お通を半兵衛の宿に捨子して養育をたのみ、立ち去つたものゝ、もう一度子の顏を見たさに立ち返つて家の中をのぞくと、乳が無くて子は泣いて居り、ちゝさばゝとは困り切つて居る。三勝は思はず乳房を握りしめ『乳はこゝに有る物を飲ましてやりたい、顏見たい〳〵、乳がはるわいのふ。』と身をふるはせて泣いて居るなどは、義理道德にとらはれて、虛僞の生活をなして居る者である。三勝半七の心中しなければならぬ事情は半七が親父はお園に對して義理を立てれば三勝に對して義理が立たなくなり、三勝に義理を立てれば親父はお園に對して義理が立たなく成つたからである。けれども半七と三勝とは子まで生した戀仲であるから、深い人情の極致に達して居るのである。それで二人は絕對に縁を切ることが出來ないので、死んで親及びお園は社會に對して義理を立てやうとしたのである。それが爲めに夫婦が愛の擴張として生んだ子を捨育する親の義務を果たすことすら出來なくなつた。當時の義理道德が如何に慘酷に人の行爲を束縛して居たかがこれで解る。それと云ふのも皆な子の結婚に對して親權者が獨斷する不合理な行爲に滿腦してゐる。宗岸がお園の結婚に對し、又は半兵衛が半七の結婚に對

して、親の意志で夫婦を飴細工のやうに結ばうさした事が誤りである。然るに半七は自由意志によつて既に業に三勝さ完全に性的結合を遂げて居る。愛の塊りなる子まで生んで、其の間は天の許した立派な結婚である。然るに半兵衛さ宗岸さはお園を元の通り半七の嫁さ爲し、お園は妻であるさ思つて居るが、今日より見ればそれは虚僞さも滑稽さも笑止の限りであり、實に不見識なものであつた。現今の社會にも斯うした不見識の連中の居る間は、一方に於て戀同志の心中事件は免れない現象である。心中を單に道德上から排斥するだけでは愚論に過ぎないので、その心中をなして生ぜしめる原因を排斥しなければならぬ。

三、深雪阿曾次郎（宿屋の段）

深雪さ阿曾次郎の關係は、宇治の螢狩の折に戀から夫婦を契つた仲さある。兩人さも武士の子であれば、然諾を重んずる身分の者であつたことは明かで、此の契りを一片の反故にするやうなことは勿論想像するこさは出來ない。深雪は阿曾次郎を夫さ思ひ、阿曾次郎は深雪を妻さして行末同棲しなければならぬものさ考へて居たさ見なければならない。けれども阿曾次郎はまだ出世前であり、駒澤次郎左衛門さ名乘る浪人侍に過ぎないのであるから、今急に深雪さ同棲して妻子を養ふこさの重荷な事情もあつたらう。斯うして居る中に駒澤は東下りさなり、二人の間は音信不通になつたらしい。そこで德川時代の貞操道德に養はれてゐた深雪は心配になつて堪らない。京都へ行つて尋ねて見るさ、江戸の方へ行つたさ云ふので、大振袖の單身で追ひかけるさころが途中で目を泣き潰し、盲目になり、生活に困り乞食して東海道を下る。駒澤次郎左衛門は數多の同勢で宿に着いたが、此の邊に瞽女をして居る女の深雪らしいこさを聞き知り、宿の主を介して呼び寄せ、歌を唄はせ琴を彈かせ、身上話をさせる。この時に駒澤は同僚に對してこの瞽女が自分さ偕老同穴を契つた妻であるさは言ひ兼れたので涙を嚙みしめて控へてゐた。こゝが德川時代の武士堅氣であつて、武士の體面さして非人の瞽女を自分の妻であるさ公言するを憚つたのである。自分の妻を犧牲にしても武士の體面を保たねばならなかつた。そこで武士の社會道德さ男女の人情に發する個人道德さの間に矛盾を生じた。駒澤はこの道德的矛盾に就いて深く煩悶して居る。表向では「チヽ朝顔さやら大儀であつた、初て聞いた身の上ばなし、もし其夫が聞いたならば嘸ぞ滿足に思うで有らう、ノウ岩代殿……」さ何事もないやうに同僚を顧みて居るが、同僚が寢沈んでから宿の主に朝顔をもう一度呼ばせて逢はうさしたり逢ひ兼れたので目藥さ金子に扇を添へて宿の主に賴んで旅立したなさは、無量の悲哀を感じた結果である。けれども武士さしての體面より推す時は、涙を飮んで深雪を棄てるより外に方法が無かつた。大小を捨て、裃を脱ぐ一匹夫さなつて深雪を擁して死生を共にする個人道德は當時の武士社會には露程も無かつた。駒澤は武士の社會道德に從つて大小を横へたまゝ、一日契つた妻の深雪を棄てゝ大井川を渡つた。斯くさは夢にも知らない深雪は、「エヽなじみ所か年月尋る夫でござんす」さ云ふので、雨の中を飛び出し、「嚙死んでもいさひはせぬ」さ突き退け刎れ退け、女の念力跡をしたつて轉びながら大井川まで來る俄の大水で川留さ聞いて、張り詰めた力が一時に落ちて泣き悲しむ。天を恨んで號叫する。「天道樣エヽ聞えませぬ〳〵わいな」さある。「三千世界を尋ねてもこんな因果が又さ世に有るべきか」さ云つて居る。小石を袖に拾ひ喉笛を切り大井川に投身する。この深雪の行爲は女子の最後の行爲さして或ひは當然であらう。天道の解らないのも彼の女には無理がない。天道は當時の社會に於ては武士道のために掩はれてゐた。男女の道德は武士道に活殺されてゐた。三千世界を通じて夫婦の愛情は神聖無二の天道でなければならぬが、武士道さ云ふ男子の社會道德があつて、君臣同輩の義理を重じたが爲めに、妻が大井川に投身するを放任して置かなければならなかつた。一方に於て女子に貞操を強ひ、一方に於て男子の御都合次第にこれを遺棄するこさを是認した當時の武士道の如何に勝手氣儘であつたかは、この朝顔日記を通じて想像するこさが出來る、武士道が女子を蹂躙した哀史さして、自分はこの一篇を淨瑠璃物語にして聞くこさを好むのである。（つゞく）

□愛國婦人會愈々改革

吾人は飛田遊廓問題の如き、若し愛國婦人會の一團が奮つて起つたならば、鎧袖一觸の感があるであらうさ思ふ毎に、同會員の無自覺を洪歎して居つたが、遂に此の五月の總會に於て定款を改正し、廣く救濟事業に携はる事の出來るやうになる筈である、救濟事業さいふが如き消極的だけではまだ物足らぬが、それでもこゝ迄醒め來つたこさは喜びならずさせず。切に今後の活動を囑する。

總選擧の批判

早稻田大學敎授
廓清會理事　内ケ崎作三郎

□總選擧は國民教養の機關なり

今次の總選擧に於ける私の應援演説の目的は國民を社會的に敎育せんとするにあつた。故に何人が當選するも落選するも私の關する處でない。總選擧に臨むで多くの悲觀すべきものを見出したけれども、其の半面に於て亦樂觀すべき或る物を求めたのである。

今日の我が國に於て多數民衆と接近せんとするには、政治を通ずるにあらざれば不可能である。單に學術的、及び思想上の演説を試みるに當つて、多くの來聽者の集らないのは其の證據である。是れ總選擧は國民を敎育するに見遁すことの出來ない好機である。私は政黨政派を眼中に置かず宗敎家として、又敎育家の立場から國民の敎養を今次總選擧に於て叫んだ次第である。

□政權の掌握と總選擧との關係

今更超然内閣の非を論ずるは陳腐である、從つて之を非立憲とするは世間に大體に於て異論はない。されば超然内閣は民意と懸離されたる孤立内閣である。故に寺内内閣の出現は確に非立憲にして、一部の野心家の煽動と、元老の長閥保存の目的に出でたるものであつて、民意を尊重し輿論の歸趨に依つて公明正大なる政治を行ふと云ふ一點の誠意なきを遺憾とするのである。彼等の眼中只、國民を愚弄して閥族の利福の增進あるのみで、國民の不幸之れより生ずるのである。

我が國の政治の狀況と、國民の政治的思想より考ふれば、今次の總選擧に於ける政府黨の優勝は事實民意の然らしむる處でない。從つて國民の多數は現政府を信任すると云ふ意味でないことは明かである。過ぐる大隈内閣當時の總選擧を回顧するに、時の政府黨は到る處言論戰に於て反對黨を壓倒したのである。多少の干涉を試みたけれども、其の結果議會に多數を占むるに至つた。されば多くの新聞雜誌は筆を揃へて立憲的の内閣の評を冠せ、或る期待を以て迎へたのである。然るに現政府の今次の總選擧に於ける言論戰は反對黨の爲に明かに悲慘なる敗北を演じたるは世人の知悉する處であるが例へば全國に於ける激烈なる選擧地たる。横濱、金澤に於ては演説會場の不足より市民が政府反對黨の爲に、屋敷を與へ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

或は明地にテント幕を設けて演說會場に當て、盛に政府黨に備へせしむる處があつて、皆市民の歡迎と拍手の裡に演說會は開かれたのである。斯の如く反對黨が言論戰に於て政府黨を壓倒して勝利を博したのに、其の結果は却つて政府黨の勝利に歸し、反對黨の敗北を見るに至りたるは奇異なる現象と云はなければならぬ。之れ米國の新聞記者が我が政治の狀況の意外なるに驚異の眼を瞠つた所以である。

過去の政治上の經驗と、現時の國民の政治的意識とは政權掌握の時に當つて總選擧に臨めば必ず勝利を博するものであることを語つて居る。是れ現時の日本の政黨組織は、事實不完全なるものであつて、未だ政治社會を支配する程の有力なる組織體でないから、常に反對黨の地位にあれば不利を蒙るものである。之に反して政府は嚴正なる組織體であつて、加ふるに政府の威力を以つて未だ封建思想を脫し官尊民卑の思想に縛り付けられてゐる國民に威壓を試みるから、政府黨の地位にあれば必ず有利である。若し夫れ後藤內相の筆法を以て評せんか、政府黨も亦不自然なる多數黨であると云はなければならぬ。

□立憲政治と宇宙の大體

此の政治上の狀態は、國民の政治上の思想及び社會的教育の幼稚なる處より出づるは明かである。故に選擧の公平を持し健全なる立憲國の發達を促すものは一に國民の智德の教養にある。敢て唯單に法律で其の取締りを嚴にし、且司法官の森嚴なる裁判のみに依つて選擧の公平を望むことが出來ない從つて有權者の買收と、壓迫とは遂に之を根治することが出來ないのである。凡て法律、政治及び宗教、教育等は嚴正なる宇宙觀、人生觀に立脚して宇宙の大體に合致したものでなければ國家を益し、社會を利して向上發展を企畫することが出來ない。今日の所謂司法權の獨立も絕對的のものでない。必ず手加減のあることを想像するのである。彼等は法律の條文に精通すると雖、未だ以て宇宙の大本を解する程の人士がない。從つて法律の其の根本的精神が如何なるものなるやに付て何等の見解を有して居ない。宇宙の大體を解することを得ずして法の適用も、司法權の獨立も完うすることが出來ない。法の適用も解釋も往々時の政府の御都合を計ることがある。卽ち司法權の獨立は一に時の政府の掌中にあると云ふ不埒なことがないとも限らない。國家の施設及び制度は民本主義たる此の宇宙の大本に立脚してこそ初めて公明正大なる政治を行ふことが出來る。一部の權力階級に利用せられ、野心家の煽動に依つて其の命脈を斷じ得ざるが如きは社會國家を荼毒して誤らしむること敢き多辯を要するまでもない。

□政權掌握と社會の秩序

現時の我國の政治上の狀態は政權掌握に依つて、其の地位を贏ち得ることは前に述べたが、今日の多數黨なる政友會も一度政權に離れば其の黨員の減少を見るに至ることを豫想することが出來る。從つて反對黨の悲慘なる敗北も敢て悲觀する程もない。一度朝に立てば亦其の挽回も易々たるものである。然れども斯の如き政治上の狀態の永く持續するときそこ

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

に恐るべき大なるものが潜むで居るのである。即ち國民の政治の意識が明瞭を缺き、政治的教育の幼稚にして何等の主義定見もなく、所謂浮草の如く今日は彼の岸、明日は此の岸といふ樣に、人の支配するに任せて常に變遷極りなき狀態なれば。悲憤慷慨の志士が憤然と立つて無智な國民を誘ひ出し、一つ異れば社會の秩序も平和も蹂躙せられて茲に法律も何の爲す處も知らないと云ふ波瀾が生ずるのである。故に吾人は選擧の公平を持し、立憲國の隆昌を企畫するには、國民の智徳の敎養を第一戰とするのである。即ち見識あり、學識あり一定の主義方針ある多くの有權者の存在は與へられたる選擧權を行使するに當つて、必ず自由意思に依つて決せられ買收も壓迫もそこに何等の効を奏することを得ずして選擧の公平を持するが出來る。今次の總選擧に十二萬圓は愚か三十萬圓も使消した候補者がある。若し此の三十萬圓の內二萬圓たりとも。宗敎團體或は敎育事業に投じて國民の敎養に資する所あれば、或は三十萬圓の處は五千圓位の費額で濟むだかも知れない。

パンカーストが衆議院に突進すべく群集に向つて演說しつゝある處
（一九〇八年十月トラフアルガルスクエアにて）

□政治は哲人の手に依つて爲せ

次に政治家の多くは其の見識、學識、人格共に見るべきものがない。其の思想に於て餘りに貧弱にして語るに足るべきものがない。其の演說の如きは多くは新聞の論說を切り拔きして暗誦したものに至つては、言論戰の不振も亦宜べなるかなである。於茲理想選擧も企て及ぶべきでない。特に地方の政客に至つては其の貧弱なること甚しいのである。かう云ふ理由で今日まで地方の人士は餘り言論戰に興味を持つて居ない。又其の地方の新聞界を見るに更に其の內容の貧弱にして新聞紙の面目を有してゐるものはない。地方開發と新聞との關係は甚大なるものであるから、地方新聞の改革も亦茲に於て其の必要を叫ばざるを得ぬ。

斯の如く言論に咄にして、其の學問思想人格に於て見るべきものなきは、今日の言論戰をして不振に向はしめたる原因であつて、軈て立憲政治の發達の遲々たる所以である。故に吾人は有權者の覺醒を促すの必要なるは論ずる迄もないが、政治の衝に當る代議士の覺醒も亦同時に高調して、彼等を醒めさせなければならぬ。或人は「政治は哲人に依つて爲されねばならぬ」と言つた。哲人とは學者でなく哲學者でない、見識、學識あり一定の主義理想に依つて行動を律する士である。如何に立憲政治であつても智徳の修養を欠ける多數人の支配する處なるに於ては究竟衆愚政治に過ぎぬ。

新入學に就て家庭に（二）

高島平三郎

先づ第一睡眠の時間が十三時間、課業即ち學校にある時間が三時間、運動が五時間（此運動は學校で行るやうな遊戯體操を言ふのではない、小供の思ふ儘に遊ばせる事）食事、沐浴等三時間といふ割當てゝあるが全然此通りには出來ない迄も此れ位の範圍内で、小供を寢食させるやうにありたい。

然るに如何に右の時間の割當てが適當して居ると保護者が考へ且つ實行しやうとしても、田舍及び都會の或る一部階級を除くの外は却々爲し得ない者が多い。殊に逐年生活難が激烈になるに連れて、總ての事が愈愈益々活動する時間が延長されて行く爲め、兎角都會の小供は睡眠不足に陷り容い。此場合十三時間杯と呑氣に構へ居る譯には行かない事情の下に居る小供があるであらう。斯る境遇の裡に成長する小供は實に不幸であつて、同情すべき者がある。彼の淺草邊の小供の如きはさうである、何分彼町の人達の生活は大抵夜更け迄起きて居て、小供も共に眠くて耐らないのだが一緒に眠い眼を擦り乍らするともなしに起きて居なければならない。

□ □ □ □

例へば青樓の小供の如きは商賣上、小供が側でギャー〳〵騒がれては實に五月蠅さいふので、十錢なり二十錢なりを持たせて、外へ遊びに行かせる。すると小供は活動寫眞なり其他のよくない物などを見て、自然度重なるに從つて惡習慣が植付けられ、遂には不良少年となつて了ふのである。私が或時夫等の小供に就て調べて見た事があつた。中には比較的稍眞面目な者もあつたが、九分通りは皆親が小供を五月蠅がつて金を與れては外へ出して遊ばせた結果であつたといふ事を知つた。無鐵砲な親になると一晩に五十錢、六十錢位使はせる者もある。斯うなると學校の先生の月給より小供の小使錢の方が遙に多いといふのもあつて、睡眠不足許りではなく、其上習慣迄も愈々金を出して迄も築き上げつゝあるといふに至つては、實に嘆しい次第であると申さねばならない。

習慣の恐ろしい事は誰も承知しては居るとは云へ、兒童の習慣が又格別に影響を及ぼして來るといふ事は斯くの通りである。されば之れが保護者たる者は充分此事に就て留意しなければならぬ、若し飽く迄放任主義を採り將來に矯正るだらうなどゝ打捨て顧みぬ如き事あらば、啻に其兒童時代の精神に惡因を醸す許りでなく、終生其習慣は離れず了る樣な事がある。不良少年の簇出する理由に就ては曩に說く處があつたから、今更茲に喋々しく再述するの必要はないが、要するに人生の一生を通ずる凡ての人格といふ者は、先づ兒童時代に於て培養される者と見做さなければならない。現時漸く此意味に於ける小兒教養といふ事に意を用ひ來つたのは眞に祝福に堪へない次第であると思ふ。

□ □ □ □

扨て次に注意しなければならない點は入學後に於ける事項で即ち復習といふ事である。謂ふ迄もなく復習は學校で先生から教はつた學課を熟く納得せんが爲めの者であつて、之も將來の習慣を築き上ぐる手段に於て是非共保護者が兒童に向ひ自發的に依つて採らねばならぬ一の方法である。然るに世間の保護者の中には無理矢理に小供を縛り付けて迄も復習を強請する者があるけれども、一面其習慣を作るといふ意味から見れば至極尤な事のやうではあるが、決して斯くして迄も復習をさせる必要もなし、又無益な譯であるから、何處迄も自發的手段に據らねばならぬ。故う一つは學科を其先々と教へて了ふ事である。保護者が子供の記臆の良いのを自慢氣に、又左樣でなくとも子供にせがまれて先生の未だ教へない處をずん〳〵教へる事であるが、之は最も戒む可き事である。成程子供自身としても先々と先廻りして記臆して居れば學校の授業も極めて樂な譯であつて、子供は左程頭を惱まさずとも良い譯である。けれども一方には大なる惡弊が誘發さ

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

れて來る。さいふのは家庭に於て先生から未だ教はらぬ事を記臆して學校に行き授業を先生から受けるさすれば、最う覺えて居る事柄であるから、一向先生の話に興味がない。而して先生のいふ事よりも自分の父なり母なり又は兄姉なりの方が面白いやうに心得て來る許りか、先生よりも自分の家の人達の方が偉らさうに考へて、遂には先生を毫も敬はなくなつて來る。さうなるさ學校さいふものに興味を持たなくなるから勢ひ課業を怠るやうな事になつて、折角苦心して保護者が教へた骨折も、可惜疲勞儲けに終つて了ふやうになるのである。此邊の事情に就ても充分保護者は注意せればならぬ。

□　□　□　□

次は所持品殊に日用品に關する事であるが、之は其時代さ各地方さの風俗や事情等に大なる關係があつて、一概に兎や角論斷なするのは甚だ當を得ないが、要するに餘り不相應な日用品を與へぬやうに注意せなければならぬ。然るに親は誰しも子に甘い者で「親馬鹿チヤンリン」抔さ昔から云はれつゝあるが如く、可愛い子にせがまれゝばつい惡いさは知りつゝ子の喜ぶ顏が見たいばつかりに買つて遣る親達が隨分多い。例へば鉛筆でも紙でも乃至は又文具類でも夫れ相應な數さ品さを與へれば事が足りるのに、小供が欲しいからさて無暗矢鱈に金を惜まず買つて遣るやうな事では、子供の身に取つて大なる不幸さ言はねばならないのである。何故かなれば一朝其保護者が貧乏にでもなつたさするさ、前の樣にさう容易に買つて遣る譯には行かなくなつて來る。けれども子供は家庭の貧富抔さいふ事は一向知らないから、從來の習慣上彼れ是れさせがむ。斯うなるさ保護者も困つて只大聲で叱り付けるより仕方がない。するさ小供は他の子供の持つて居る物欲しさについ盜むさいふ事になるのである。

右はホンの一例であるが、例令保護者が如斯状態に一ならずして、依然豐かであつても矢張子供が盜癖を生ずるやうな場合がある。或小學校の二三年生徒の間であつたが、何うも毎々何かしら盜まれるので其受持教師も殆んご弱り切つて居た。多分他人の物を盜む位であるから、定めし日用品を豐かに買つて貰ふ事の出來ない子供だらうさ惡い疑ひではあるが、さう目星を付けて毎日々々注意して居た。するさ或日の事擧動の怪しい一人の子供を見付けて、漸々調べて見るさ案に違はず夫迄毎々盜むだ者は其者であつた事が判明した。然るに驚く事には其子供は相當の保護者あり財產ある家庭の子供であつた。一體何うい譯で左樣に人の物を盜むのだらうさ思つて聞くさ、夫は只他人が持つて居る品物さ觀れば只無暗に欲しくなつて耐らず、盜んで夫を使ふさいふ理由ではなし又他人に吳れる心算でもなく、只理由もなく自分が持つて居るさいふ事が良い心持ちだからださいふ、隨分奇氣な話だが是等も保護者が與へた一つの惡習慣である。

□　□　□　□

最後に最も注意す可き事柄は賞罰さいふ事である。今迄述べた處の者は、稍々部分的で一括的でなかつたが、此賞罰は實に其範圍も廣く隨つて應用も數限りなく用ひられる處のものである。「泣く子に乳」さいふ諺があつて、人間は生れるさ急ぐに自身に必要な丈を要求して歇まないものだが、此賞罰さいふ事は夫れさ反對に當然の要求さも云ひ得るけれども、其都度々々の機に觸れ思ひ掛ない刺戟を與へる事を謂ふものであるから、何處迄も其精神を失しては不可ぬ。つまり輕々に行らないで飽く迄愼重な態度で用ゆ可きである。

されば私は賞罰を指して「支柱の如し」さ稱して居るやうな次第で、之が當を得て居るか何うかは判らないが、賞罰さいふものが子供の教養上何れ丈重要な方法であるかは今更申す迄もない事である。そして賞罰の方法には種々あつて、何か日用品を與へるさか或は菓子を與へるさか數限りはないが、吳れるのは良いさして其場合をよく見て吳れなければならぬ事は謂ふ迄もない。假りに學校が優等だ、それ御褒美、何か良い事をしたそれお菓子さ云つて矢鱈に賞めて許り居るさ、遂に夫が習慣さなつて些少の御褒美では滿足しなくなつて我儘を言ひ出す。さうなつては折角の賞も無益である。又之さ反對に年中罰して許り居るさ、例令良い事でも復叱られはしないかさ怖々して手も足も出なくなつて來る。第一小學時代殊に一年生位では何樣な事が惡いか良いか考へた處で小供自身には判らう筈がない。只氣の向く儘に手足を働かすのだから、夫を突然抓る抔は以つて外の禁物で固く愼まねばならぬ。小供の一擧手一投足に就ては保護者が其善惡を敎へ諭して、善惡の區別を漸次明瞭に記臆し行くやうによく〱機會を捉へなければならぬのである。

□　□　□　□

以上之れ迄述べた處のものは新入學の小供に對する希望の若干であるが、勿論此外に注意す可き事項は幾多ある。けれども以上の筋道に辿つて照介し熟考すれば適當の處置を採り得る事が出來るであらうさ思ふから、此他の點に就ては略して置きたい。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

此の淫風を如何

醫學博士　藤浪剛一

▲近來學生の花柳病が非常に多くなつた。而も制服制帽で平氣で治療を乞ひに來るのである。それが十七八歳位の中學生位からあるのだから驚かざるを得ぬ。

▲今茲に統計の上から明確に論斷する譯には行かないが、自分の感じからいふと中學卒業後專門學校に入る迄が一番多いやうである。そしてそれが官立の學生よりは私立の學生に多く、最も少いのは高等工業で、多いのはやはり明治、早稻田慶應などのやうに思ふ。一般に法科の學生に多く、理科をやる方の人に少い。之れは理化學の方面を修むる者は、實驗などで忙しいからではあるまいかと思ふ。所謂小人閑居して不善をなすで、どうも餘暇のある者は過ち易いのであらう。茲に私が特に驚愕してゐる一事實は、私の病院に通つて來る學生が、毎日顏を合せて同病相憐れむとでもいふのか、痲友會といふのを組織してゐる。之れは同じ痲病で惱んでゐる學生で、自然話も合ふ處から這麼事になつたのであらうが、無恥とも無羞とも云ひやうなき事實で、之れでは同病相憐れむどころか、同病相誘つてゐるものとしか思はれないのである。

□　□　□　□

▲それでも花柳病の開業醫が、其の玄關を大通りでなく態々横丁に設け、或は大玄關の外に路次に小玄關を設けて居る處を見ると、まだ多少良心があるものと思はれる。即ち花柳病に罹つた者が、醫師の門をくゞるには必ず前後を見廻はしてそこらに知人の通つてゐないのを見て始めて安心して這入るのであるから、態と其の出入が人の目につかぬやう裏門又は横丁の入口からするのである。されば此點より見ればまだ全く羞恥の心を失つてゐる譯でもないから、今の内に大に男女道德を鼓吹せなければならぬと思ふ。

▲私の病院には藝酌婦のやうな者も來るが、彼等は定まつて順番を靜に待つてゐる事が出來ぬ、うるさい程まだか／＼と必ず催促する。此次は何日に來るやうにといふて、ハイ必ず參りますと答へて置きながら、屹度約束通りに來ない。放埒な生活に馴れた彼等は社會の秩序が守れないのである。

▲また神奈川の病院で聞いたが、彼等は看護婦を甚だ怖がつて、從順であるが、醫師や事務員に對しては一向いふ事をきかぬ。彼等はもう男は女に甘いもの、少し變な眼付でもしてやれば直ぐ鼻の下を長くするものとして、頭から既に吞んでゐるのである、それで却つて看護婦の方が溫順に從ふといふ事である。之れ果して彼等の罪か將た男子の罪であらうか。

□　□　□　□

▲山梨縣に先日行つた時に内務部長が私に語るのは、東京の私娼撲滅の餘波が本縣に及んで誠に困つてゐる、逐拂はれた私娼が賣笑婦の少い當縣に續々流れ込んで來て、風俗を紊す事甚しく、青年の氣風が一變せんとする有樣で、殆んど手のつけやうがない、どうも叩き散されるのは甚だ迷惑であるといふて居つた。私娼撲滅の名は甚だ美いが叩き散すのでは困る、これは丁度癩病患者と同じて、癩病患者が見つかると目黒の慰癈院に入れる、そこを逃げ出すと所澤の全生院に入れる。又逃げ出す又追込む、年中同じ事を繰り返して居るが、私娼の弊も亦同樣で、これはもつと徹底的な考へを廻らすでないならば効果は擧げられぬ。

▲私をしていはしむれば之は女よりも寧ろ男に敎へる事が必要である。今日の如く花柳病が蔓延して、青年之を恥とせずして淋友會なんどゝいふが如き無羞の會を見るに至りては、次代の國民の體格がどうなるであらうか、識者の大に考慮を要する問題である。

□　□　□　□

▲獨逸邊りでは性慾學會といふ樣なものがあつて最も眞摯に研究してゐるのであるが、日本では小倉氏などが類似のものを起したけれども、研究方法が違ふから駄目で、ハルピンでは十二時過ぐると這麼活動寫眞を映寫してゐるといふ樣な話をしてゐるに過ぎないやうである。此の問題に就てはもつと嚴肅に眞率に研究して、國家と人生の爲めに適策を講じなくてはならぬ。

▲先達て中央新聞が、都下學校の便所の落書を素破拔いてゐたが、實際何處の學校にも卑猥極まる樂書のあるのは事實であつて、甚だ卑陋の話しであるが、此の落書を改めて敎訓的の文字を書くといふ風にすれば、多少の効果があると思ふ。一體斯樣な場所にありては考ふる事がないから目前に見える文學なり畫なりに關する聯想が、頭の中の一切を占領するのであるから、卑猥な事が書いてあれば嫌應なしに卑猥な聯想をしなくてはならず敎訓的のものがあれば、厭應なしに敎訓的の聯想をしなければならぬ。甚だ卑近の例であるが、元來風敎問題の如きは隱れたるに行はれる極めて微妙な作用であるから卑近を以て捨つべきでない。又識者の一考を促すに足ると思ふ。(談)

□藝妓の手練手管は詐欺□

══になるいふ新判決例══

□内地ではないがツイ此間、朝鮮の高等法院で、お客を騙して金品を贈與せしめたといふ妓生(一種の藝妓)に關する秘密事件の原審で「妓生を弄した結果とは謂へ其情交の報酬として贈與した金錢は、生色に溺れた間に生じたるものであつて、全く女に欺網されたものである。」と云ふ理由の下に詐欺罪に處した判決を相當なりして妓生の上告を棄却すると云ふ近來操つた判決があつた。此理由とする處は、藝娼妓が男子から金品の贈與を受けたと云ふ一事丈けでは、直ちに詐欺罪を構成するものだとすることの出來ないのは明白であるが、苟くも藝娼妓が詐欺の手段を用ひ、之れにより男子をして、贈與の決意を爲すに至らしめ因つて金品の贈與を受くるに於ては詐欺罪を構成すること、藝娼妓でない者が詐欺により之れを受けたと毫も異る處はない。といふにある。卽ち手練手管で、お客を騙すのを商賣としてゐる樣な藝娼妓が、遊興關係でお客から金を貰つた樣な場合でも、手段が詐欺だから詐欺取財で罰すると云ふのである。

今後かういふ判決が若し我内地でも下されるやうになると、詐欺の犯人が何萬人出るか定めし大騒ぎが起ることであらう。

廓清春秋

河合北洲

溺れざるもの何處に

溺れざるの國ありや。溺れざるの人ありや。ノアの洪水以上、滔々たる二十世紀の濁浪は連りに漲る。

渇せざれば止まざるの人生は、又流れざれば止まざるの濁水也。我にパンを與へと叫ばずんば、何を以て我を利せんやと問ふ者、流れてパンならざるの石、心ならざるの岸壁に衝突して、濁水は逆流し、横流す。

順流は其道を得、逆流は其常を失ふ。逆流近く支那に漲れば、一朝にして愛親覺羅氏を洗去り。横流不意に露西亞を襲へば、一夕にしてロマノフ朝を崩潰す。滔天の濁流を決し來りて、天人二道の破滅を試むる、彼カイゼル將た何するものぞ、起て死十字の水防に從ふもの、歐洲聯合の全力に加ふるに、日米の聲援を以てして、既に彼我の生靈を殺傷する一千五百萬人。其浪費も亦一千五百億萬圓を算するに至る、恐るべきは濁流の汜濫也是れ實にノア洪水以上の大慘禍なり。

汜濫の禍は、獨り敵國外來の下水のみに非ずして、又國內の豬水に其禍因を藏す、民心の腐敗、道德の墮落、政治の虛僞、其一あるも以て國運を傾くるに足る是を以て歐米の同盟國は臥薪嘗膽の節制謹愼に加ふるに努力奮鬪を以てし、更に禁酒宗敎の方舟に犯罪の豫防を圖るが如き、在外兵士の心は則ち又在內男女老幼の心にして、其國に殉ひ、節に盡すの忠烈に至ても、日露戰成金の一等國に凌駕するものあらんとす。自稱一等國民たるもの、今將た何の狀かある。

外には、列國の侮を禦ぐ能はずして、朝三暮四の政策に追はれ。內には、黨同異伐の箕を焚きて、豆は釜中に泣くの弊に堪へざるあり、待合を政廳となし、遊廓を家庭となし、自己中心の車道を敷けば、戰爭成金は僥倖の棚餅收得に、滿腹の嘔吐を散布し、黃金萬能宗徒は其餘瀝を吸ふに全力を盡して、賣るまでの商賣、創立に至るの會社に熱中するも、受

□□□□□□□ 端午節句の由來

端午のお節句が近づきました、男の子のある家では何處の家でも吹流しや五月鯉を立てたり、お座敷には菖蒲人形や甲冑を飾り、屋根には菖蒲蓬を挿し、粽や柏餅を拵へ之を祝ひます、あの勇ましい金太郎の姿や、神功皇后の神々しいお顏、緋縅、黃櫨匂ひの龍頭の兜、見るからに心も浮き立つばかりです

菖蒲は尙武

扨て五月五日は何故端午の節句とて斯う云ふお祝ひをするのでせうか、之れは初五又は初午と云ふので、五月ではなく何時でもよかつたのですが五が重なるので五月五日になり、此の日を重五とも端午とも云ふことになつたのです、此日は昔菖蒲の鬘を被つて宮中に參內したもので、菖蒲は尙武に通じ諸々の惡氣を除くと云ふので一名菖蒲の節句と云ふやうになつたのです、甲冑を飾るのも同じ意味で、人形を飾つたのは德川時代の初期頃で人形を作り、菖蒲の太刀を添へたのが初めだと申します

美しい行事

一說には端午を五月五日と定めたのは元寇の昔蒙古襲來の時、北條時宗が之を討亡ぼした日が五月五日に當り、其の時幟や旗を立てた勇ましさを偲ぶ爲めに幟を樹てると云ひ、其の時の武者を、鍾馗に見立て蒙古人を鬼として鍾馗を使つたと申します、鯉は出世の魚であつて、之を立て風に吹かせるのは、一つには腹の中の百病を風で吹き拂ふ爲めだと申します、何にしも美しい行事で、永く其儘續けたいものと思ひます。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

渡後の商品と事業には多大の相違あるを特色となす。男女間の節操は美服の裏面に、半獸主義の馬脚を包みて。家庭の内部、紳士の半面には、虚僞の變装を常態となすあり。虚栄の衣食、外觀の家屋、骨董の器玩、而して滿腔の投機心、宛たる醉卿の國民、道德に權威なく、宗教に信念なく、徒らに高唱する忠君愛國の拔殼は、五月雨の行潦に轍鮒の一日を貪らんとするもの、これ豈に戰禍に倍する濁流の溺死國に非すや、涙あるもの嘗さに雨と注くべき也。

天候の觀測は必すしも氣象臺の特權に非す。國家の救濟は必すしも志士の專有に非す、正に是れ、千萬載一遇の大事變に際して其脱出を圖る、固より至微なる一小心靈なりと雖も、仰いて天來の生命に浴し、俯しては濁浪中の自己屍體を救得るものあらば、則ち茲に一個の方舟を新設したる也、一個十個、而して千個萬個の方舟あらば、アラ、ツト山上に運ひ去らすとも、頁個金甌無闕の基礎盤上に大正無上の帝國を築き得べき也。

溺れざるものは何ぞサマリヤの一淫婦ヤコブの泉上に立ちて、正午の情熱に渇く、一神人の立てるあり曰く、われ爾に再び渇かざる、又盡きざるの活水を與ふべしと、淫婦溺れざる新生の靈水に沐浴せば、燦として餘光の輝けるを見る、これ廓清の第一號也。遺香芳烈茲に二千載帝國日本にも、此活泉を傾注すべき切要の迫るを覺ふ、時々又刻々に。

哀れの春

春爛熳の花天月地、東洋の帝都に流し行く、按摩上下八百文の笛聲に、無限の斷腸と冷汗あり。

宇宙には青天白日の王法あるも、肉眼以て見るに足らされば、國家には則とるの政治を有せす。更に人生の眼前背後に至親の天父を抱けとも、肉眼以て見るに足らされば、國民は聖愛の懐に在るを知らす。徒に暗中模索の一枚に縋りて、一醉一夢の薄明郷に逍遥ふ、憐れむべし人生の按摩行や。

疾患も其眞因を探るに術なく、投藥も其中心を攻むるの力なく、僅に外部の摩擦によりて生の一露を繫ぐ、上下八百文たるもの、人生の現狀を嘲り得て、皮肉に余る按摩理の地口ならざるや否や。

汨羅の古事

扨て此の勇ましいお節句に粽を拵へたり柏餅を供へたりするのは何故でせうか、是にも中々深いわけがあります、昔支那に三閭大夫屈原と云ふ人がありました大層學問も出來武勇優れた人でありましたが惡人の讒言により遂に國を逐はれましたが、更に人を怨まず、「懐沙賦」を作りこれを懐にして汨羅の海に投じて死んでしまひました、人々は屈原の志を憐れんで此海を渡る時、必ず竹の筒へ飯を入れて投てやりました

迷靈の註文

此處に長沙に欧回と云ふ人がありました、或日汨羅の海を渡ると、岩間からヌツ、と屈原が現はれて、竹筒の飯を投げて下さるのは有難いが此の海には年久しく蛟龍棲み皆之に食べられて了うから是から後は茅の葉に巻いて投げて呉れと云ひました、所で欧回は其の通りにしてやりますと夫からは屈原の靈も現はれなくなりました、茅巻は是から起つたので、英雄屈原に手向けるのが、いつか五月のお節句と一緒になつた

粽は茅巻き

粽は茅巻で、昔は五色絲で結び眞菰に包んだこともありました、其の後楝の葉に包んだこともありましたが遂に三つの柏の故事から楝か柏の葉となり五月五日に結つけて、人形の前に供へたりお粽をされた家への答禮に贈るやうになつたのであります。

鯉幟の濫觴

江戸ッ兒に譽へられて居る五月の鯉の吹流しは文化頃から出來たものです、五色の吹流しは天平頃からあつたと云ひます。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

遊廓物語（五）

□□□ 妓夫と娼妓の突き通し □□□

救世軍婦人救濟係　伊藤富士雄

「人でなしといふなア手前の事だぞ。犬だッて三日飼はれりや恩を知つてゐらあ。手前なんざ畜生にも劣るんだ。三百兩といふ大金を借りてよ、長い間御飯を頂いてよ、着る物に事を缺かずに來たのは、一體誰のお蔭だよ。」

「手前の親父なんざあの時何と云つたい、お蔭樣で命が助かりますと涙を流して喜んでゐたぢやねえか。それを忘れくさつて、碌すつぽう客も取られえで、大枚の借金を踏倒して自由廢業とは聞いて呆れらあ、いけ圖々しい阿魔だ。」

「ねえ旦那、こいつのお蔭でお店の暖簾に傷がついたんでさ。今に見てゐろ財産差押へをして手前の親父や阿母に吠え面かゝして見せるから、さあおいッ、早く脱がねえか、其の羽織は旦那のお錢で出來たものだぞ、金を拂はねえ間は手前のぢやねえや、早く脱ぎやがれ、此ん畜生ッ。」

と今にも摑み掛りさうな見幕で、男は女を脅かした。

女は新吉原角町塚本樓の深雪といふ娼妓で、自廢の爲め救世軍に援助を求めて來たので、余は直に同道して日本堤署へ出頭すると、例によつて樓主が呼び出される、すると樓主と共に這入つて來たのは同樓の妓夫で、警察の中でも憎々しげに毒づき凄味を並べて脅迫したが、女が應ぜずして飽迄廢業を願つて止まなかつたので、餘儀なく名簿は削除となり、余は女を伴れて警察を出たのであるが、樓主と妓夫とは暫く跟いて來て毒口を叩いた末、殆んど着てゐる着物に手を掛けんばつかりにして着物を剝ぎ取つてしまつたのであつた。夕暮のうら寒い風は遠慮なく女の髮をなぶつてた。血の氣のない青い女は寒さと恐ろしさに慄へた。男は猶も堪え難き迄の罵倒を浴せた。道行く人は立止まつた。樓主は

「さあ辰公、もういゝや歸らう。」

「旦那、俺しや此妓が何處へ行きやがるか、跟いて行つて見やせう。どうせ情夫の處へでも失せやがるんでしやう。」

樓主は取上げた着物を持つて別れて立去つたが、飽迄憎さ氣な顏をした妓夫は私達について來て、我々が電車に乘れば同じく電車に乘るのであつた。

けれども樓主と分れて後の妓夫は殆んど一度も口を利かなかつた。やがて電車を銀座の本營前で降り、女と共に扉を排して這入ると、續いて男も這入つて來るのである。私はまあ何といふ執拗い男だらうと思つて其男を押し出して。

「お前は何しに這入るんだ、もういゝ加減に歸れ」

と一喝すると、女が後から直に出て來て、中に入れてやつて呉れといふ。變な事をいふものだと思つたが、それでは兎も角もと思つて自分の事務室へ兩人を伴れて這入ると、男は今迄と打つて變つて悄然として頭を續けさまに下げて、

「先生誠に濟まぬ事を致しまして申譯ありません。」

女も一緒に頭を下げて、

「どうもほんとに濟みませんでございました。」

「一體どうしたと云ふんだね。」

「いえ實は先生、狂言をやりましたので、へッ、誠に相濟みません。へッへッ。」

「ナニ狂言？ どういふ譯なんだね、薩張り分らないぢやないか。」

「へッ、へッ實はその、その、へ、此女とは何でして………」

「えッ？ はゝあ、君達は突き通しだね。」

「へッ、其れなんで、へッ、其爲め實は樓主の前で狂言をかいた譯で、どうも濟みません、お蔭樣でこれで助かりました。どうか之れから此儘私も堅氣になりますから、どうぞ二人を添はして頂き度うございます。」

「はつはつは、何の事だ、すつかり食はされた譯だね道理で執拗過ぎると思つた。それにしても、君の處の樓主は元は壯俳だといふぢやないか。」

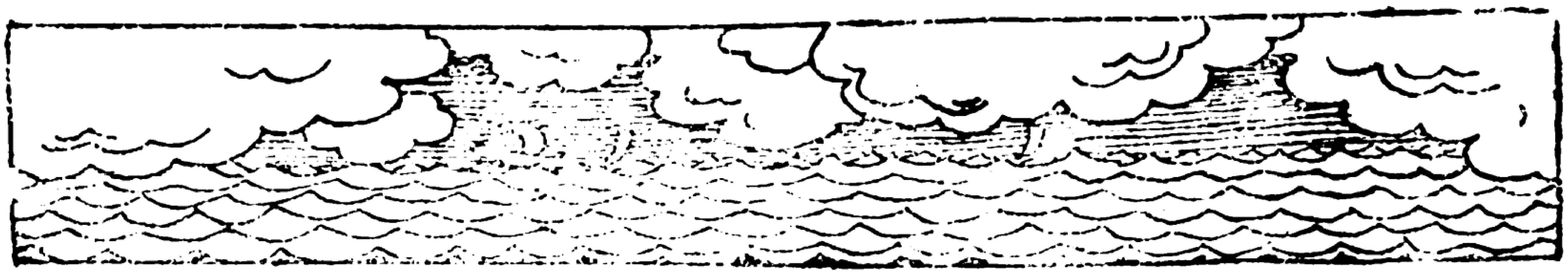
「へッ左樣でございます。俳優上りだといふ事です。」

「ふうむ、して見るとお前の方が役者が一段上で、旨い芝居を打たれた譯だね。」「へッへッへッ………」

＊　＊　＊

斯うした一場の喜劇を演じた事もあつた。妓夫と娼妓との關係は之を突き通しと稱して廓の中に於て最も忌む處、舊幕時代には大勢の前にて裸にし倒さに柱に縛りつけて笞を以て半殺しに歐り殺す峻嚴な私刑があつた程である。斯くて二人は九尺二間の詫住居ではあるが、そこには春風が吹いて暖い家庭が作られ、彼女は丸髷姿でまめ〲しく立働いてゐる。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY



天鼓之響

學生諸君に與へて覺醒を求む

横濱　梅翁

一枝の禿筆、三寸の鈍舌は、既倒亂瀾の當今を救ふの功力なきを知り、筆を取つて下ださんと欲すれば、先づ下る者は涙、口を開いて言はんと欲すれば、先づ發生する者は嗚咽、道德の墮落方今より甚しき者はあらざる可し、宇內各國を舉げて皆然らざるはなし、倫理宗敎は机上の空論にして、口に糊するの具となり、社會を救ふの實力なく空しく人を誤するの道となれり而して我國最も其の極に達せるが如し、唯存娼論あるのみならず、上は皇室の藩屏と稱する華族より下は裏長屋に住む細民に至るまで、公々然として家庭の紊亂淫逸放埒詐謡虛言、世の罪惡と稱する者些も行れざる者がない、余は老齡なるを以て世の煩雜に接觸する場合は極めて少ない、併し新聞や俚歌によつて見聞すれば思ひ半に過る、華族の子弟が下婢と情死したとか、又其お孃様が鐵道往生したの如き、裏長屋の七八年の子供が「おやぢ〳〵と威張なおやぢ、おやぢア子供の脫け殼ぢや」一般國民の倫常道德の破壞は明に證據立て居る、又世を敎導してある。鐵道往生や情死問題は、世に露見した一二で華族舉つて淫蕩の風行はれてある事を知る可しである、飽食暖衣の徒は斯の弊あるは今に始めぬ事情である、治まる御代には上正しければ下正しである、俚歌の如きも七八歳の子供の作でない都ての民風が之れを歌ふから、敎育せられて、物の黒白も辨ぜぬ內から斯して成長するのである、其の歌の實在として嫁や娘、婿や息子が、公然と父母舅姑を罵詈する、夫婦喧嘩、親子喧嘩は、投げ錢で立つた淨瑠璃の如く、世人は一つの見物として居る、之れ等が吾人の頭の中に何物か與ふる毒藥たるを知る者が少くないであるから廓清號投稿の机邊に群がる廓清事業は千々萬々一より十まで廓清を要する今日、何を先とも何を後とも思ひ起す端緒を見出し兼ぬる、でもアレヨと叫んで、見す〳〵亡び行く亡國的兆候を袖手傍觀するに忍びない、であるから、世の廓清の原動力たる學生諸君に對し、余が所思を述べて參考に提供せんとする。諸君果して同感なるや否や。

部會に生活する學生と稱する諸君は、田舍中學校位卒業しても停車場の切符切り位の位置を得るに止まる世の上流の位置を占めんとするには、大學とか高等學校を卒業せねば相當の位置を得られぬ、又種々の技術學藝も都會の專門學校で相當の敎育を受ければ、一寸下等勞働者の上位くらゐ占めるに過ぎぬと云ふので、爭ふて都會に出て、或は大學に高等學校に、技術專門學校に入學するのである。余は之を惡しと云ふのでない、誠に結構である、けれども田舍に在つた其の時は相當の家庭より通學する、でなくとも家鄉も近くあれば、冬夏の休業には歸省して畑の畔の菜物の征伐とか、雨の日には干米のいり物位食ふて家庭の樂しき、なつかしき日を、無邪氣に送つて居た、其時は父母の小言を聞いても苦にもせぬ、それが笈を負ふて都會に出たら最後柵を破つた虎の如く、若々しい無邪氣な家庭は騷擾と交換して、單に下宿屋のおかみの貴きを知つて、都々一やらはうたやら、下等遊藝の一節にも長じなければ、人交りが出來ぬ、藝者にも時々接觸せねば社會から疎まれると面白おかしく暮して、家庭にも歸省せぬ家鄉などかび臭い、之れが爲めに初志を遂げ兼ねて墮落する人が十中の五六であらう、初志の學術は卒へても、人格の墮落は學術と反比例を爲し、父母兄弟姉妹など足からまりになる俺れは個人主義だとか云つて、屁を言つて金を借り飲酒放蕩至らざるなく、胡坐をかいてお飯を食ふ、慷慨悲歌など莫迦〳〵しい金錢問題でなければ耳を傾けぬ、某が成功したとは、分外に金に成つた話、金錢になつて安樂に暮らせるから父母兄弟姉妹なども顧みない、哀れな窮民を救はうともせぬ、國も賣る、殘忍刻薄、手を下して人を殺さぬばかり、口は人の諫めを防ぐに足り、智は理を非に曲

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

解するに足り、名は君子なれども心は高等無人である此の如き、學生等が近き將來に於て上位を占め社會の主腦となる事は眼前に横はつて居る。後れてある、後れてある、でも今にして、此の弊を改めずんば、益膺を噛むに至るではないか。昔日の志士等も都會に出て學藝や武術を修業した、又放埒もした、けれども入塾とか藩邸より通學とか少しは窮屈なしつけもあり、殊に道徳の幾部は苛刻なる刑法が支配してあつて輕忽に出來ぬ。であるから嚴格な國政であり、學問と言へば單に倫常問題に歸着してある。それが習ひ性となつて年比になれば如何にも嚴然たる資格を備へ一廉の武士となつた、昔は放埒でも今は見榮ある人格を有した墮落仕切つて終る者は、百分一二であつた、であるから花は櫻人は武士とまでもて囃された、方今倫常が刑法と分離したのは人智の進歩は倫常の自從位知らぬ者がなく又倫常と刑法と別問題であると云ふのも倫常が癈つたと云ふのであるまい、學生諸君人類の基礎として百般の社會を整理せらるゝに何を以て基礎とせらるゝか、之又修養法や齊淵百話か、或は當分に圓鑿方枘なる釋數孔孟によらるゝか、まさか下宿屋のおかみさんではあるまい、諸君の基礎とせらるゝ所果して何物なるか、少しく眞面目になつて考ふるは得策であるまいか。

小樽より

吉田彌之助

（一）

豫れて伊藤主事迄報告し置きし如く、當小樽區に於ては吾人が叫ばざるべからざる一大問題起りぬ、今其の概畧を報告し兄姉方の強き御聲援を願はん

去る一月二十三日永井金次郎氏區長として來任後間もなく二月四日小樽區會は滿場一致を以つて左の議決をなせり。

小樽南廓が市街に接近したる適當の箇所へ移轉されん事を望む、

理由、

現在の南廓は市街と甚だしく隔絶するのみならず其の間丘陵の綫路屈折し交通不便を極むるを以て人の訪ふ者稀なり既に二十年近き星霜の經たるにも拘はらず其の衰頽疲弊の狀態は實に掩ふべからず、其の結果として區內に私娼の夥しく增加し風紀を紊し且つ公衆衛生に危害を及ぼすに至れり、依て該遊廓を市街に接近せる適當の箇所に移轉せしむるを急務と認む。

右北海道區制第六十二條により意見開陳候也。

（永井區長は右決議に意見書を添へて倭長官手許迄提出されたる由）

（二）

案ずるに右決議の意味よりして吾人は左の二要點を捕ふるに難からず、

一、區會議員諸君は遊廓の繁榮はやがて（イ）、私娼を減退し、（ロ）風紀を改善し、（ハ）衛生狀態安全になり、（ニ）從つて家榮へ區榮へる、と誤考せる事

二、議決權を以つて少數有權者を買收せんとなしたる事、

□伊勢山田の廢娼□

■■■を矯風會決議す■■■

婦人矯風會は創立滿三十年に達して、本年度の總會と共に盛んたる祝賀會を開いたのであるが、本年度總會に於ける決議は、

一、伊勢大廟の內宮外宮間に遊廓の存在するは大に皇室の尊嚴を汚すものなるを畏る。故に謹んで之が撤廢を請願す、

右大正六年四月、東京に於ける第二十五回大會に於て滿場一致を以て決議す。

といふのである。右に就て同會大阪支部長林歌子女史は實地踏査を行ふた。矢島會頭は日「此處の遊廓は內宮と外宮との中間にあつて昔から名高いものであるが、場所柄だけに實に痛ましい事であります。伊勢參宮をする多くの男には此處にも行つて見れば話しの種にならぬ樣に心得て寄る。參宮によつて淸淨謹嚴の氣を得て歸らればならぬものを、却つて反對になつて戻る。實に皇宗に對して畏れ多い極みで、一日も早く之を取拂はねばなりません。運動の方法は未決ですが、今度は今迄よりも一層廣く國民の輿論に訴へる積りです無論運動を起したからとて直に遊廓が無くならうとは思ひません。隨分な困難と月日を要するでせう。私共は何日迄も續く限り戰ふ積りであります」

矯風會の意氣や壯んなりと謂はねばならぬ、吾人廓淸會たるもの亦奮つて援助せん。

三、區會の態度が餘りに不眞目である事。

(一)に付いて吾人は先づ區會議員諸君に對し今少しく愼重なる態度にて群馬和歌山等の有樣及び檢梅其のものゝ實績又は遊廓繁榮が生む人心の腐敗、家庭の紊亂經濟上の破亂等を充分研究されむ事を望まずんばあるべからず。

(二)に就いては少くとも樓主なる者の選擧權を奪取すべしと考ふ、何故なれば彼等は其の子女を正式に中等程度の學校に入學せしむる事を得ざるにあらずや財力有りながら法の制裁によつて其の子女に神聖なる教育を授け得ざる者、彼の可憐な姉妹達の血を絞りて生ける人非人に神聖なる選擧權を長く與へむかりて生ける人非人に神聖なる選擧權を長く與へむか今後如何なる政治的弊害生ずるやも計り知るべからざるべし。

(三)莫然と適當の場所へと云ふのみにて果して誠意ある決議をしたりと云ひ得べきや。

(三)

若し區會が是認したる如く南廓を市街に接近させ、是れが繁榮を計らんか、其の結果は區會の希望と全然反對のもの生ずるを如何せむ、何故なれば遊廓の繁榮は遊蕩兒の增加を證明するものならずや、遊蕩兒の增加が區の爲めなるや、或ひは論者は曰はん、遊廓接近すれば其の方に集め私娼を減少せしむる事容易なりと然し事實は決して左樣ならざるを證せり、卽ち今の所にあれば餘り目に付かず其の場所すらも知らで終るもの青年の中にもあり得るも是れを目前に見せ付けられて如何で堪るべき、實物教育によつて教へられたる彼等は必らずや其所に集るに相違なく、若し集る事を制止せむとすれば或は又集り得られざれば彼等は必ず私娼を求むるならむ。今迄かゝる物の存在すら知らずよく制慾し來れる青年迄も、勢ひ實物を見せ付けられむか抑制するに困難となるべし、此の立場より論ずれば區會は或意味に於て遊蕩を教示し强制し、青年を侮辱したる議決をなしたりと云ふも過ならざるが如し。

要するに遊廓を市街地に接近せしむるも、私娼の減少せざる事は東京其他の實例に於て明なり、小樽に私娼の增加したのは廓隔離の爲めよりも寧ろ取締が嚴重でなかりし爲めたるが如し、故に區の改善を計り私娼の減少を期するには遊廓を市街地に接近せしむるよりも、先づ一步進んで青年に精神的教育を施し彼等の良心に訴ふるを抑つて良策とす、猫の前に魚を置き而も食ふべからず」と云ふが如き方法にて風紀衞生の改善を計らむとは何んたる姑息ぞ、吾人は尙ほ他に多く反對理由あるも紙面の關係上此度は是れに止めむ。

敎育家及佛敎徒は區會の決議に同意したるか、何等今日迄反對を試みず、獨り基督敎徒は二月十一日の敎役者會に於て全く反對の步調を取るべく旗色鮮明に、松本牧師專ら奔走の任に當り、去る三月某日道廳長官及び小樽警察署に對し陳情書を提出し、反對運動の第一步を試み尙ほ次第によりては本會へ特派員を乞ひ大々的反對論戰を試むるの豫定なりしが、元來前記の如き決議其のものが魂なきものだけに其後未だ別に問題も起らず、然し何時指定地の問題が起らんも計られざれば、其の時こそ吾人は國家の爲め主義の爲めに飽く迄も戰ふべきを覺ゆ、幸に御加禱あられたし。

(四)

吾人は更に筆を轉じ小樽每夕新聞に對し少しく駁論を加ふべき必要あるを覺ゆ。

□女學生はどんな□

■■■本を讀んでゐるか■■■

本年の二月に梅田高等女學校で女學生の家庭に於ける課外讀物を調査した表が、大阪實塚婦人博に陳列されてゐる。其の種別を見ると、傳記が四百五十二「文學」が二百七十六で「歷史」「修身」などが之に次いでゐる。第四位ながらも修身といふ課目に關した讀物を手にしてゐるものゝ多いのは、心强いやうにもあるが、何んだか答が不安なやうにもある。

	學年	數
傳記	第一學年	九九
	第二學年	六五
	第三學年	二一九
	第四學年	六九
歷史	第一學年	二
	第二學年	三五
	第三學年	二七
	第四學年	三五
文學	第一學年	二四
	第二學年	二六
	第三學年	一二九
	第四學年	七八
修身	第一學年	一三
	第二學年	二〇
	第三學年	二三
	第四學年	一八

文學の多いのは何處へ行つても御定りであるが、更に其の中を細別した項目分けの調査によると、小說が最多數で一千二百一人といふ統計が出てゐる。今更之を不思議がる譯もないが、小說中の分類別を調査したのを見ると頭を傾けるやうな點が多い。

小說中の分類

戀愛	四三六	冒險	二三四	探偵	二二
忍術	一六二	妖怪	一二九	慘忍	三一

戀愛の多いのは至當なやうにも感ぜられるが冒險が男並に多くなつてるは驚かざるを得ない、此冒險性を女子に實現させると何ふなるかゝ研究ごころだと思ふ。「忍術」の多いのも餘り感心した結果ではないだらう。最小さはいゝながら「慘忍」なる讀み物を好むのは厭な心地がする。戀愛の年級別は

戀愛{第一學年 第二學年 三〇〇 第三學年 四一 第四學年 一六九

洵に正直に其の眞情發露急速なることを示しておるを其他の讀物を項目にならべると

○お伽話	一五三	詩文	一三三	紀行	二
地理	二	理科	一七		

理科は何うしても女の好かぬものらしい。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

同新聞一記者は三月七日及八日の夕刊に就て「基督教團の淺見」と題して我黨の運動を防害せんとせしも彼の反對論こそ淺見中の淺見にして、試に今その要點を駁せむ、彼が「反對理由の不徹底」として論ずる中、

「今一般の世論を糺さんに當區港勢の消長と將又經濟上の根據として且つは花柳病防止、區風發上より見て南廓の移轉遂行を期せんとするの希望を抱き居るに一致し居るものゝ如し云々」

吾人は右一句により彼の人格と知識とを想像する時に思ひ半に過ぐるものあり、又彼は「一般世論が移轉に一致するものゝ如し」と其の論鋒を濁せるも今某區會議員の談話を傳聞すれば、

「現在の南廓は二三樓の他は悉く營業不振にして、現在の所に於てせば漸々にして借金をする事なくして營業を營み得らるゝも、萬一移轉せんか多數の樓主は借金を生じ從來是れが利子支拂に窮すとの懸念あれば、樓主中の多くは移轉に反對し既に區會開會の日にすら同業者より移轉反對電報の來れりし由」

遊廓近傍に在りて其れが爲め生活を得つゝある者は全然反對なり。

移轉を承認せんとせし某候補地の住民等は運動者より土地繁榮の甘言に欺かれて盲印を捺したり。

以上の三事實は余が二月二日夕、一區會議員より直接聞き取りし所なり、然るに世論一致などゝは片腹痛い狂語と云つべし。

斯くして此度の移轉問題は一般輿論にあらずして小數區民の疑言たるは明なる事實なり。

又一記者は「性慾の不法遂行」と題して彼の性格をよく現はせる一節に、

「現代社會狀態の複雜なるに從ひ一般男女同棲生活の困難を來したるは當然にして、之れがため性慾思想の發途が總て男性々慾活動を旺盛ならしめ、其の結果女子の賣淫を强要せしむる事となる、是れ生理上克制する極めて困難事である、而して性慾の之等不法遂行は各自の頗る滿足する所で、之郎ち人間の本能性であつて、强いて之を抑制せしめんには、現代の社會組織及び思想を根本より改造せれば到底行はるべきでない、夫で其の不法遂行の爲め一般社會及び個人に害毒を被らしむる虞あるから、其處に公娼の必要があるものであるまいか」

何たる妄言ぞ、何たる狂語ぞ、何たる非理論的ぞ、吾人若輩よく評するの才なけれども一言云はむと慾するや切なるものあり、

「人は考思する以上に言ひ得ず」故に右の一文はよく記者の品性をよく表せせるものなり、余は左の要點に付きて駁せむとす、彼の曰く

一、男女同棲生活困難は男性性慾活動を旺盛ならしむ、

二、その結果性交を强要す、

三、生理上制慾は困難、

四、性慾の不法遂行は各自が滿足する所、

五、不法遂行の制慾は現在の社會組織及思想界を根本的に改造するを要す、

六、公娼は無害有益なり、

(一)結婚問題に困難を來せる事は吾人も是を承認す、然れども彼は是が爲め只に男性が性慾活動を旺盛ならしむるが如く論ずるも、是れ大なる淺見ならずして何ぞや、決して獨り男性のみならず女性も同樣、否時としては後者は却つて前者に優るものあるは、心理學上生理學上將又事實上幾多證明し得る所ならずや。

(二)其の結果肉交を强要すと云ふも其は謬見のみ也。或は如何はしき記者も其の一人なるか知らざれども、我黨の靑年に於ては決して然らざるを大書して記者足下に呈せむと欲す。

(三)生理上制慾は困難とは如何にも弱者の堅たるを失はず、大和魂ある敷島男子ならざればいざ知らず、苟も日本武士に於ては然らざるなり、見ずや偉人君子が易々としてよく是れに勝ち得るを、而して制慾は無害にして有利なるをや、

(四)性慾の不法遂行は各自の滿足する所「各自」の範圍をして一記者流の社會なりとすれば或は是ならむも、一般人類、少くとも我黨靑年男女をも其の中に含くまむとせむか、吾人は決して〳〵默許する能はざる不敬の一語なり、吾人は正式の結婚による正式性交の他、凡ゆる不法遂行は絶對に不滿足なるのみならず、罪惡視するものなり、然るに何ぞや自己一身の淺學よりして各自の滿足する所と は是れ一記者 の品性をよく表し、且つ彼の論の淺見中の淺見なる事を示すものならずや。(五)に於て記者は現在の社會(日本?)は不法遂行をなすべく作られ、思想界は是を是認するが如く思考するも、內に貞操の貴重を說き外に保全の組織をなす幾多幾千の實證あるにあらずや、具體的實例を要すれば父母は子女に其の要を說き、鄉士が靑年會(男女)を組織して保全を計るが如き是其の一例なり、是れを根本より改造して何何を得むと欲するか。

(六)記者が公娼を有利とする本障は「公娼は檢梅を行ふ」故となすが、若し然らば「現今の檢梅(日本)は恰も一滴の投藥を以て大海を淸めむとするが如きものにして、何等効力なき事は內外專門家の立證せし所なり」との一言を與へむのみ、而して他に理由あらば待

ちて又論ぜば、然り而して公娼は無害有益ならずして有害なる事を曰ふのみ。

吾人の歡せむとする所右に盡きず、

（五）

是の區會ありて此の新聞社ある當區の爲めに吾人は同志に向って動議せむと欲する事あり、即ち其一は區靑年會の設立にして他の一つは、救世軍小隊の特設なり。當區數千の商工徒弟等は年々數回の休日に行く所を知らず遊ぶ所を知らず、而して不識の間に害毒の巷に出入するもありと聞く。呼可隣なる哉　是れを救はむものは商工靑年會のみ、當區に七教會あり（新教五舊教二）而して救世軍の設置は未だ見ざるも吾人をして云はしむれば小樽こそS、A、アーミーの好活動地たるの觀なからずむばあらず、

而して花々しき廓清會支部を要するや切なるも會員只一人到底火急には望まれざらん。

吾人は筆を止むるに對り

一、試驗及身體變徵の爲め報告を遲れたる事

二、拙文冗長に亘りし事

とを兄姉諸君に深謝するものなり（六、三、三〇）

我等の責任

麻布靑年會　手塚藤太郎

私共が現今の社會を見渡すに到る處に種々幾多の惡風潮が滔々として人心を腐亂し正道も爲めに沮害せらるゝと云ふ有樣實に歎はしき次第である、新聞の記事を讀んでも小說を見ても又雜誌を見ても皆男女間の問題より種々なる悲慘事を生み出すのみならず世の靑年男女の前途を誤らす樣な記事を掲げて得意然として居る、實に慨嘆に堪へない、歐羅巴の戰亂は何人も知つて居る處である、併し是は彼岸の火事ではない、戰後の日本は如何なるかと憂へて居る人士も少なくないのである、我國は實に大事な時代に居るのである、而るにこういふ大事な時代に居る人々が、さらば何をして居るであろうか、或る者は藝娼妓に戯むれ狂水に迷はされ、凡ゆる輕薄浮華な生活をして居る何んと向ふ見ずな見下げ果てた業ではないか、斯の如き非人道な無意味な生活をして居る人々を見るにつけても、一歩先きに自覺したる私共は宜ろしく正義に蹶起し社會の輿論を喚起し、正々堂々惡思想と戰ひ之れが矯正策を講ずるは私共の義務であり、又責任であると思ふ。

或人は廓清會の事業に反對する。私の知人にもある彼れが口を開いて言ふには、眞に一國の隆盛を計るには、先づ第一に商工業の發展及教育の普及を計るのが是が先決問題であると云ふ、併しこの言葉に對して私は決して反對はしない、けれどもこれのみにして國家が隆盛に赴くと云ふのは大なる誤りであると思ふ、私は思ふ國の盛衰の根本は男女間の風儀の如何にあると信ずる、昔より男女間の風儀の紊れた國で隆盛に赴いたと云ふ事を私は未だ且つて聞いた事がない、ギリシヤは如何、ローマは如何、五千年の歷史を有する支那は如何、私共國民として國家の隆盛を祈らざる者は一人もない、さらば眞實我國の前途を憂ひ國民の將來を思ふ處の者は宜ろしく廓清の二字を以つて起たねばならぬ、私は痛切に感ずる物質文明が如何程進步しても若し精神的文明即ち國民一人〳〵が高潔な品性を持ち純潔な生活をしないならば我國は將來實に寒心に堪へざる運命に立ち至らざるを得ないと思ふ。

自覺したる處の諸君、私共は廓清會の目的たる男女間に貞潔の德操を奬め家庭を純潔にし社會の風紀を廓清し人生の幸福を增進する爲めに互に努力したいものである、「義は國を尊くし罪は民を辱かしむ」聖書。

教育家の醜態

大阪　ＨＯ生

佐野町は泉州沿岸にて昔より知られたる土地にて、現在は戸數二千餘綿織工業の盛なる土地となつて居る昔は佐野三千軒と云はれしとか、三月末の事である、三浦樓と呼ぶ旅館兼料理店の一室にて午後五時頃より十時過ぎ迄、七八名の靑年が藝妓二名舞妓一名を侍らしてドンチャン〳〵の大亂痴氣をやつた。餘りの騷々しさに何處の遊蕩兒なるかと尋ねしに、豈計らんや佐野小學校の教師達なりとは、暫時が程は開いた口も塞がらぬ思がした、教師達の如斯行爲に對して町當局も有志も殆んど當然視するかの如く沈默觀過で有る、監督官廳は沒交涉不關焉の狀態である。佐野校は二十二名の教師である其の中七八名と云はゞ彼等全體の概狀は察せらる、斯かる教師に一任されたる兒童こそ悲慘ではあるまいか、無辜の兒童の先途こそ危險ではあるまいか、昨今不良少年少女の頻出は彼等の家庭の狀態にも在らんが、其の反面に教育の重任を負へる教育家の不眞面目不品行に由來する處ないと云へやうか。

教師は兒童の尊敬の中心である。而して銳敏なる彼等の眼には先生の一擧一動が反映するのである。故に教師の墮落不眞面目が兒童の將來に國家の前途に如何に重大なる關係を有し憂慨に値するか知るべきである吾人は彼等不眞面目なる教育家の或者が覺醒し自重し人格を以て兒童を教導せられんことを切望する、尙ほ教育と共に宗教の必要、葬式の道具視さるゝ死せる宗教に非ず、活ける力ある宗教の宣傳の必要を熱切に感ずるのである。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

編輯の後

▲二月上旬の事である、本部へ手織木綿のゴツ〳〵した着物を着た三十歳ばかりの朴訥な人が尋ねて來て、飛田問題に就て色々の事を熱心に聞いた。そして何でも後藤內相に會つて懇談をするといふて、色々の印刷物を貰つて歸つた。すると又四月の二十日頃本部へ來たが、生憎私がゐなかつたので私の自宅へ來たが、やはり不在の爲め印刷物數枚を殘して去つた。

▲其日の夜私は其印刷物を讀んで見ると、論文としては左迄でないが文章上の技巧は却々よく出來てゐる、漢文くづしの七五調で、本誌の約四頁位の長さで、反對運動を激勵した末、終りに

「若夫れ事實日に非にして、矢盡き彈竭き力つき、巍然たる魔城は肆然として出現し、其の輪奐の美を以て、卿等が微綻を嗤笑するに至らば、卽ち過ぐる三月七日のたそがれ時、玆より飛田の野に至り、毀傷の罪を謝しつゝも、一指を根より切斷し、滴り落つる血潮もて、指定地普く記しなせる「祝融來」の三字は必ず讖をなして」

云々といふ句があるのを見て、驚いて居た處へ、矯風會から電話がかゝつて是非來て吳れとの事で、行つて見ると、此の靑年が居つた。私は矯風會の人達と共に社會の安寧秩序を紊亂する樣に思はれる事は、廓淸運動の支障となるから、我々は飽迄正々堂々の陣を張つて、何處迄も紳士的に文明的に行きたいと述べ、其の熱烈の至情は懦夫も亦起つ可く、我等も感動し敬服すと述べて、二三時間懇談した。

▲聞けば同氏は土佐の山中で材木商を營み、親もあり妻子もあつて、今回の上京の如きは全く家人の知らざる處ださうで、飛田問題勃發以來堪へ切れなくて、實地踏査の爲め態々上阪したる事二回であるといふ。三月七日は三度目に指定地を視察に行つたのであつて、憤慨の極小刀を以て自ら左の小指を根より斷ち、骨が固くて切れなかつたから、石を以て小刀を叩いたがそれでも斷ち切れず、遂に近傍の民家に入り庖丁を借りて切つたとの事で、指定地を縱橫に步き點々と血汐を滴らせて「祝融來」の三大文字を二萬坪一ぱいに記し、それより三日故鄕の山中に籠つて、精神を傾倒し「志士の重來を望む」と題する一文を草し、之を携へて本日上京したのですとの事であつた。

▲然るに四月廿五日の大阪每日紙は「飛田運動を呪咀す。指定地に祝融來と血書」と二段ぬきの大文字にて約二段に亘つて此靑年の事を書いた。卽ち彼はそれから東京を辭して大阪に至り、本會支部に林歌子女史を訪ひ、グリソン氏其他の反對同盟會の人々と會見したのである。

▲婦人矯風會の三十年祝賀會は築地の精養軒であつたが、前日除幕式を行つた矢島會頭の石像を彫つて之を寄附した北村四海氏夫妻が來賓中にあつた。矯風會は北村氏の厚意を感謝するの意味に於て同氏を名譽會員に推選した。すると四海氏はツト起つて私は酒も煙草も飮まないけれども、まあ御辭退すると出た。丁度其眞向ふに腰掛けて居られた矢島先生は、「貴下が此方から差上げるものを受けて下さらないならば、私も貴下のお志(石像)をお受けする事が出來ません」と先生一流のお答へ、とう〳〵山室さんが北村氏を說き落して名譽會員を受ける事となり、滿場は拍手した。

▲肺結核の國手高田博士も席上にあつた。博士の賀辭は頗る吶辯で、えゝ、えゝを連發されるので年若の婦人等は吹出したいのを堪えるのに辛がつてゐた。處が博士の話は其內世界の平和に婦人が盡すべき事に及び「私は平和といふよりは寧ろ平安といふ文字を用ひたい。平安は女が盡すべきである、一體平安といふ字はウ冠りに女と書き、宇宙に女が一人居るのである。凡ての婦人が一致して唯一人の女がゐるやうになつて、宇宙を守れば此れより安らかな事はない」といふと、拍手が急霰の如く起り。當日第一等のテーブルスピーチとなつた。演說といふものは實に呼吸ものである。吶辯の吶なるを以て許すべきではない。

▲本誌は意外な程智識階級や、新聞雜誌に注意して讀まれてゐる。本誌に隨分小さな活字でちよつと書いた事でも、地方は元より東京の新聞雜誌が切拔きして揭げる事は每號で先達ての品川遊廓問題で山室氏が私に電車の中で語られた高木正年氏に對する件などは、直に萬朝が本誌から切拔いて机の隣に揭げたので、高木氏は今回の選擧に大打擊を蒙つて、安部磯雄氏の處迄辯解狀を寄越された程であつた。

▲川上貞奴の渡航を禁止した事でも、高木氏の件でも六號活字の小さなものが、新聞では標題二段拔きの問題となるから面白い。最近には橫山氏の論文などは以前は中央先月は東京每日が切拔いた、玆に最も奇拔なのは、先月の安部先生の有權者撲滅論を高知縣の某新聞が載せてゐることで、前半の旣成政黨は凡て撲滅すべしといふ處を利用して、廓淸會副會長安部教授は曰くとして、前半だけをずつと本誌にある通りに書き拔いて、さて故に中立候補者を選擧すべしといふ結論にしてゐる。隨分ずるい事をやつたものです。

▲今回靑年路傍傳道隊を組織して見やうかと思つてゐます。畢竟男女問題は靑年の問題で、靑年自身が立たなくつてはならぬと思ひますから、未だ具體的には考へて居りませぬが、若し之を實行するとすれば、今の處每週土曜日の夜にしたいと思ひますが、一ヶ月に一回以上出演せられる見込があります方は兎も角も參考迄姓名を御通知を願つて置きます。(伊藤)

大正六年五月一日納本（每月一回一日發行）
大正六年五月一日發行　一部金七錢郵稅共

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　小石川大塚窪町一番地　久保民生
印刷所　京橋區弓町十三番地　千代田印刷株式會社
發行所　芝區三田四國町二番地　廓淸會本部
電話芝五八五五番
振替東京二七〇七二番

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Kozagori Sagami (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

Dr. K. TAKATA.

Within a few minutes from the Chigasaki Railway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone : Chigasaki No. 2

診察毎朝及毎夕　但祭日及日曜之他

院長診察月、金、木、午前及木午後六時

林、峯間兩副長は目下當院に在勤

東京三番町三十番地（市ケ谷見附内）

電話番町六二番　**東洋内科醫院**

院長 醫學博士 **高田畊安**

電話ちがさき二番　**南湖院**

神奈川縣茅ケ崎海濱（從停車場半里）

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

院長診察土曜日午後　入院診後應需

診察毎朝　但祭日及日曜及土曜之他

4 — 200

紳士の朝
お顔には
クラブ歯磨
クラブ洗粉
クラブゼリー
頭髪には
クラブキニーネ
クラブポマード
クラブチック
儀容端正
効力五倍以上のクラブ歯磨